

# 農業技術センター外部評価資料

## 1 研究所基本方針及び組織（研究員の構成など）

### （1）研究所基本方針

#### 1) 基本目標

日本一安全・安心・健康な「ぎふクリーン農業」の確立と消費者ニーズに応えた「ぎふブランド農産物づくり」を基本目標に定め、地域要望の強い課題の研究開発と技術支援を積極的に展開するとともに研究成果の効率的な普及に努める。

#### 2) 基本方向

① 現場を一步リードした研究開発と農業者の所得向上に直結する研究開発を推進する。

ぎふクリーン農業を推進する技術開発

- ・減農薬・減化学肥料栽培技術の開発
- ・環境負荷軽減技術の開発
- ・新規病害虫の対策技術の開発
- ・残留農薬・重金属対策技術の開発

ぎふブランド農産物づくりを推進する技術開発

- ・「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランド研究開発
- ・新品種の開発
- ・付加価値の付与・品質向上技術の開発

② 関係機関と連携したスピーディな技術移転を行う。

現場が抱える多様な課題に機動的、即応的に対処する支援体制の充実強化

- ・現地実証試験等による技術の円滑な移転とフォローアップ体制の強化
- ・技術相談、現地指導等技術支援体制の強化
- ・研究会の開催による積極的な技術指導と情報提供

行政部局との連携強化

- ・普及組織との連携による現地実証研究の推進
- ・行政部局や農業組織と連携し県施策の推進を進める

③ 成果の積極的な発信を行う。

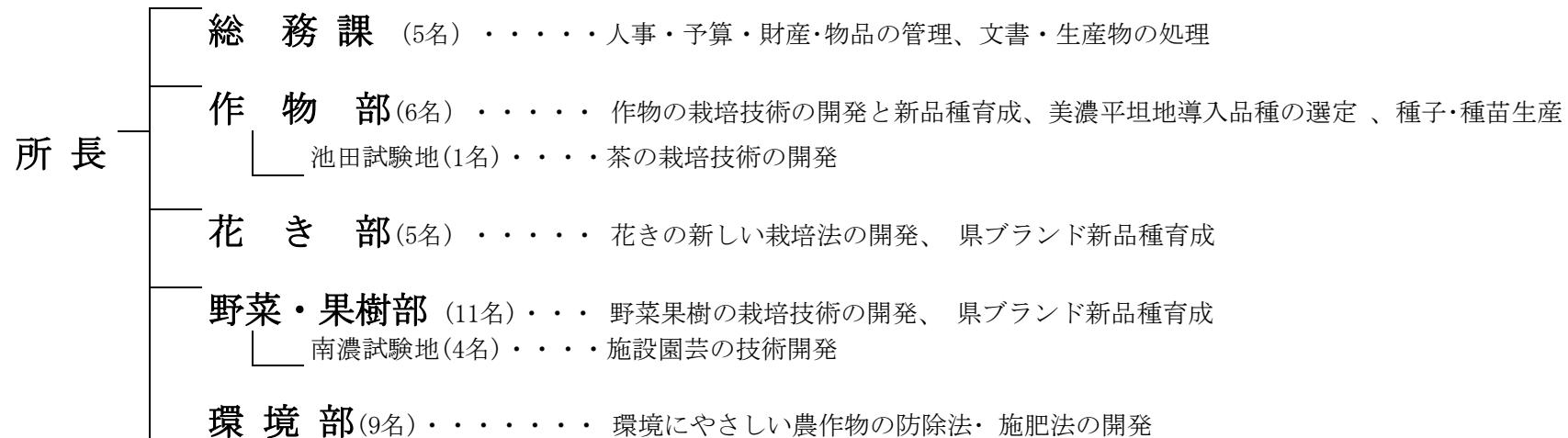
- ・研究報告、成果検討会、農業技術センターニュース、関連学会での発表など積極的に行い、新聞や放送などのメディアを積極的に活用するとともに、あらゆる機会を捕らえ、研究員全員が成果のPRに努める。
- ・各種研究会や農業関係者を対象とした講習会や検討会等を積極的に開催し地域へ研究成果の技術移転に努める。
- ・当センターで開発した完成前の技術を現場で検証し早期普及を行うために、農業改良普及センターとの連携研究を積極的に推進する。

## (2) 組織および構成

### 1) 沿革

明治 34 年 農事試験場創立 (1901 年)  
昭和 32 年 農業試験場  
昭和 45 年 本館改築  
昭和 61 年 農業総合研究センター  
平成 11 年 農業技術研究所  
平成 18 年 農業技術センター

### 2) 組織



所属職種	所長	総務課	作物部	花き部	野菜果樹部	環境部	計
事務吏員		5					5
技術吏員	1		5	4	8	8	26
技能職員			2	1	7	1	11
計	1	5	7	5	15	9	42

## 2 前回の外部評価の概要

### (1) 実施年月日

平成17年12月19日

### (2) 評価委員

	所 属	氏 名
学識経験者	名古屋大学大学院生命農学研究科教授	山木 昭平
	岐阜大学応用生物科学部長	古田 喜彦
	野菜茶業研究所 企画調整部長	吉岡 宏
産業界	岐阜県農業経営者協会会長	平野 清通
	女性農業経営アドバイザー	田下 喜代

### (3) 指摘事項と対応

指摘事項[ポイント]	対応状況
研究課題の設定について 普及員がさらに減少すると予想される中で生産現場からのニーズをより効率よく吸い上げる方策について今から考える必要がある。外部競争的資金への積極的な課題提案も重要である。	時宜を得た研究成果を得るため、重点研究課題に取り組むほか、特に現場で早急に解決が求められている地域密着型課題も積極的に推進し研究成果が地域の生産者に役立つ技術となるよう努めている。外部競争的資金に対する課題提案と情報収集を積極的に行い資金獲得を図っている。
研究体制について 外部競争的研究資金獲得のために全国区で研究プロジェクトを獲得・遂行できる研究員を育成・維持出来る組織作りが必要。県の研究機関は、地域、現場での活用できる技術革新、開発が重要なので、分野によっては国、大学に任せるべき面もある。	県民からわかりやすく、頼りになる研究体制にするため、作物の育種と栽培技術が一体で研究できる作物別の研究組織に変更した。 国研や他県等の試験研究機関等との連携研究に積極的に取り組み、効率的な研究の推進に努めた。また、人員削減が進む中、分担・協力関係を明確にし、産学官連携、共同研究の推進を図った。
成果の発信と実用化促進について 研究員は研究成果を研究論文として学会誌などに投稿するよう努力すべきである。もっともっとPRが必要である。	研究報告、成果検討会、農業技術センターニュース、関連学会での発表など積極的に行うと共に、日刊紙や放送などのマス・メディアを積極的に活用するとともに、あらゆる機会を捕らえ、成果のPRに努めている。
技術支援について 研究所の規模から判断して上手く実施できており評価できる。	行政部局、農業改良普及センター、JA等関係機関と連携会議、部門別研究会を開催するなど連携を密接にし、普及連携研究などを通し技術の移転、技術支援に努めた。
人材の育成・確保について 研究員が自己研鑽出来る時間と余裕を保障して欲しい。大学、独法研究機関への派遣による積極的な資質向上を検討して欲しい。	若手研究員のキャリアアップを図るため、大学や先進研究機関への研修制度を積極的に活用し人材育成を図ると共に、博士号の取得にも努めた。
その他 今後も、地域との連携をより密にして、ぎふクリーン農業関連技術とぎふブランド新品种の開発を目指して欲しい。	引き続き、研究所の基本方針に沿った研究開発と技術支援を積極的に進めている。

### 3 研究課題の設定

時代の潮流を踏まえ、各方面の様々なニーズの把握に努め、時宜を得た研究成果を得るため、出口を見据えた役に立つ研究開発として重点研究課題と質の高い技術支援をするために現場で早急に解決が求められている地域密着型課題を積極的に推進する。

#### (1) 課題設定までのプロセス

##### 1) 研究ニーズ等の集約

生産者との直接的な情報交換会や技術相談、技術指導で得られる要望、農業関係団体や市町村との意見交換に加え、県行政部局からの要望課題など幅広いニーズの収集に努めている。

##### 2) 課題化への取り組みと選定方法

集めた研究ニーズを「ぎふ科学技術振興プラン」や「ぎふ農業・農村振興ビジョン」の他、現場の状況、予算や連携機関の有無など課題遂行の可能性を加味して選定し、関係行政部局との調整を経て課題化の決定を行う。特に、先取り的な研究課題は重点研究課題として提案し、外部有識者等による外部評価を受けた後、実施の有無が決定される。一方、現場で緊急に解決すべき課題等については、地域密着型研究課題としてセンター所長の裁量で実施の有無が決定される。

#### (2) 主要な研究課題の設定

##### 1) 連携型プロジェクト研究課題

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
天然由来の健康有用物質の検索と実用化	消費者指向の多様化から、農産物についてもオリジナル性が求められており、岐阜県の特産品であるカキとイチゴについて、他産地と差別化・高付加価値化を図るため、機能性成分の探索を行い、それらを利用した新たな用途・商品開発を行う。	岐阜県の特産品であるカキとイチゴの機能性成分について検討した結果、カキでは美白関連成分であるケルセチン配糖体を増加させる条件を明らかにした。また、イチゴでは、岐阜県育成品種「濃姫」「美濃娘」を含む6品種について抗血栓作用を比較した結果、県育成の2品種がいずれも他の品種より高い抗血栓作用が認められた。	H18～20	保健環境研究所、産業技術センター、中山間農業研究所、生物工学研究所、畜産研究所、河川環境研究所、森林研究所、国際バイオ研究所、岐阜大学、岐阜薬科大学、県内企業	合計 11,760 県費 11,760 外部資金 0
合 計	1 課題				

## 2) 重点研究課題

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
トマトの独立ポット耕による培養循環システムの開発	トマト土耕栽培では、土壌伝染性病害による生産不安定や土壌消毒に多大な労力を要しており、低コストな溶液栽培技術開発が求められている。また、従来の循環養液栽培では、肥料バランスの不安定と病害の発生などから定期的に培養液が廃棄・更新されており、環境に優しいシステムになっていない。	培養液組成を第3果房開花時期に切り替えることによって、かけ流し栽培と同程度の収量、品質が得られる培養液の処方を開発した。これにより、環境負荷がなくなり、大幅な肥料削減が可能となった。	H18～20	県内企業	合計 11,963 県費 11,963 外部資金 0
農薬飛散、省力に配慮したカキの先進的防除体系の開発	県内カキ産地は、住宅地との混在化によるトラブルや農産物の非意図的汚染など大型防除機による農薬飛散が問題となっている。また、防除作業が高齢者には大きな身体的負担となっており、生産現場からは省力的かつ農薬が飛散しない防除体系の確立が強く望まれている。	農薬散布方法の改善（樹幹塗布、高濃度塗布）や性フェロモンの活用により、大型防除機に頼らない省力的な防除技術の開発を行い、併せて安全・安心な「ぎふクリーン農業50」が達成できるカキの先進的な防除体系を構築する。	H21～23	(独)果樹研究所、県外企業	合計 7,180 県費 7,180 外部資金 0
ぎふ清流国体に向けた「ぎふブランド產品」の開発に関する研究	国体における「おもてなし」「PR」を契機とした県内農林水産業等の活性化を目指すために、新たな「ぎふブランド產品づくり」に関する研究開発を加速する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体に彩りを添える「花き新品種」の育成 国体における花飾り用として、これまでに鉢花、切り花としてフランネルフラワー、バラ、トルコギキョウ等岐阜県オリジナル品種の育成を行うとともに、国体時期に合わせた花壇苗の栽培管理技術の開発を実施中である。</li> <li>・早生「甘カキ」新品種の高品質安定生産技術の確立</li> </ul>	H20～23	中山間農業研究所、畜産研究所、河川環境研究所、セラミックス研究所	合計 29,145 県費 29,145 外部資金 0

課題名共同	設定背景	研究概要	研究年度	研究機関	研究費(千円)
		<p>生理落下防止対策として、適正な樹勢管理と人工授粉が重要であることを明らかにした。樹勢と受粉環境を整え、種子がきちんと入れば生理落下は減少することが判明した。</p> <p>「太秋」における条紋・汚染果の発生要因を明らかにした。条紋については、収穫直前の降雨（特に9月下旬）による影響が大きいこと、汚損果については、樹体間の差が極めて大きいことが判明した。</p> <p>・「夏秋イチゴ」の高品質安定生産技術の確立 基肥の施肥改善および有望品種「すずあかね」を選定した。</p>			
合 計	3 課題				

### 3) 地域密着課題（主な課題）

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
水稻新品種の育成	近年の気候温暖化が原因と思われる米の品質低下により、良質良食味米生産の妨げとなっている。	本県の気象条件に適した高温登熟性に優れ、かつ本県平坦部における重要病害である縞葉枯病抵抗性を有する系統を育成する。	H20 ~24		合計 4,529 県費 4,529 外部資金 0
大豆の青立ち症状の原因究明と対策	大豆が成熟しているにも関わらず落葉しないため、収穫不能、あるいは収穫しても汚損粒が発生し品質低下を招く「青立ち症状」が多発している。	大豆の青立ち症状の原因について、病害虫及び栽培生理的な面から究明し、その対策について検討し、良質で安定的な大豆生産を目指す。	H20 ~22		合計 1,558 県費 1,558 外部資金 0

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
小麦の高品質化技術の開発	低湿な水田転換畑で生産される本県の小麦は、「低蛋白で産地によるばらつきも大きい」と、実需から指摘を受けている。	肥効調節型肥料を基肥とする施肥体系を基本として、「イワイノダイチ」および「農林61号」を高品質かつ安定的に栽培する技術を体系的に確立する。	H21 ~23		合計 1,750 県費 1,750 外部資金 0
中山間地茶園向けの防除作業機の開発と減農薬防除技術の開発	茶栽培では化学合成農薬の削減が積極的に進められており、さらなる減農薬防除技術の開発と農薬ドリフト防止対策が求められている。	自走型送風式捕虫機及び農薬散布機を開発し、化学農薬の年間散布量を従来の半分程度に抑える減農薬防除技術を開発する。	H19 ~21	(独) 野菜茶業研究所、滋賀県	合計 3,000 県費 0 外部資金 3,000
農作物の特性調査及び種苗生産事業	「主要農作物種子法」に基づき、米・麦・大豆について県内に普及すべき優良品種の決定調査と優良品種の原種・原原種の生産を県機関に位置づけている。	本県の主要農作物（水稻、麦、大豆、茶、イチゴ等）の特性調査を実施して適正品種を選定する。また、それらの原原種等を維持管理し、必要な種苗を生産・配布する。	S29 ~		合計 3,926 県費 3,926 外部資金 0 (H20~22)
東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発	原油価格の高騰により、A重油等の石油燃料を大量に使用する施設園芸農家は経営が逼迫する状況にある。そこで、従来の収量・品質を維持しつつ暖房用燃料30%削減を目標とした技術開発を目指す。	岐阜県の特産品であるイチゴとキュウリの省エネ技術について検討した結果、イチゴ高設栽培においては、変温管理や電照時間の調整により暖房用燃料45%の削減が可能となった。 また、キュウリにおいては、ハウスの外張り、内張りの双方に空気膜を利用した結果、同55%の削減が可能となった。	H18 ~20	(独) 野菜茶業研究所、(独) 花き研究所、愛知県、三重県、県外企業	合計 9,200 県費 0 外部資金 9,200

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
岐阜県育成イチゴ品種の抗血栓成分の特定と活用	生活習慣病が増加傾向にあり、日本においては高齢者の死因の上位を占める血栓性作用のある食品が注目されているが、「天然由来の健康有用物質の探索と実用化(H18~20)」において、県育成のイチゴ品種「濃姫」「美濃娘」に高い抗血栓作用があることが判明した。	岐阜県育成イチゴ品種「濃姫」「美濃娘」が持つ抗血栓作用を明らかにし、その成分を特定する。また、加熱等への加工適性を検討し、抽出エキスを使った食品素材の開発も行う。	H21 ~23	国立長寿医療センター 、岐阜大学	合計 1,500 県費 1,500 外部資金 0
イチゴの病害抵抗性中間母本及び品種の育成	本県ではぎふクリーン農業を推進しており、農薬の使用削減のために病害に強い品種育成の要望がある。	病害抵抗性(萎黄病、炭疽病)を有する品種を育成して、本県のイチゴの生産振興に資する。	H21 ~25		合計 4,065 県費 4,065 外部資金 0
露地野菜の高付加価値化のための栽培技術の開発	野菜の栄養成分の強化による高品質化は、ブランド力向上だけでなく、県民の健康増進の観点からも重要な課題となっている。	エダマメ、ダイコン、ホウレンソウ等についてビタミン、ミネラル等の栄養成分の実態把握を行い、品種、土質や栽培方法の違いと栄養成分含量との関連を立証する。	H21 ~23		合計 2,881 県費 2,881 外部資金 0
地域特産野菜の安定生産技術の確立	県で認証する飛騨・美濃伝統野菜の生産振興を支援するため、ナバナや甘長ピーマンの系統選抜や品種育成を実施している。	甘長ピーマンで被害が目立ちつつある「えそ症」について、発生防止技術を開発して、生産安定に貢献する。	H19 ~21		合計 8,008 県費 6,355 外部資金 1,653
カキの糖度向上技術の確立	カキの品質において、果実の大きさや果皮色に加え、食味に対する消費者ニーズが高まっている。そこで、主力品種である「富有」の高糖度果実生産の要因について検討する。	カキ「富有」の糖度向上には、光環境及び着果数の影響が大きく、土壤水分等の影響は小さいことが明らかになった。	H17 ~19		合計 4,400 県費 4,400 外部資金 0
内部品質の優れたカキの生産供給技術の確立	カキの生産において、果実の大きさと果皮色が市場評価、消費者ニーズの基準となっていたが、近年、消費者ニーズの変遷により内部品質が重要な要素になってきた。	「おいしさ」に寄与する要因を解明し、各要因と気象要因や栽培方法との関連を明らかとし、「おいしい」果実の栽培技術を構築する。	H20 ~24		合計 5,642 県費 5,642 外部資金 0

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
温暖化に対応した果樹の安定生産技術の確立	近年、着色遅延による品質低下、出荷不能等の問題が生じており、影響評価と対応技術の開発は喫緊の課題となっている。	温暖化に伴うカキへの影響を評価し、その機構を解明するとともに、果実品質を向上させるための対策技術を構築する。	H21～25		合計 6,493 県費 6,493 外部資金 0
主要害虫の感受性評価	近年、現場から殺虫剤の効果が悪くなったのではないかという懸念があり、普及センターからは薬剤抵抗性を考慮した薬剤選定のために殺虫剤感受性について情報提供の要望がある。	感受性低下が懸念されている主要害虫について、現場で使用されている主な殺虫剤の感受性検定を行い、地域に情報提供することで、殺虫剤の合理的な使用を推進する。	H21～23		合計 1,591 県費 1,591 外部資金 0
夏だいこんの総合的病害虫防除技術の開発	県内夏ダイコン産地では、キスジノミハムシによる品質低下が大きな問題となっており、早急な解決が求められている。	キスジノミハムシの発生生態を解明し、防除技術を開発する。また、黒芯症原因菌(黒斑細菌病菌)の伝染方式を解明し、早期検出技術を開発する。	H21～23		合計 2,520 県費 2,520 外部資金 0
土壤肥料調査試験	急激な肥料価格高騰に対応するため肥料コストを抑えた施肥技術の開発が求められている。	家畜ふん堆肥の新評価法によるリスト作成や過剰傾向にある土壤中リン酸の活用法を開発し、低成本堆肥の利活用を推進する。	H21～23		合計 4,452 県費 4,452 外部資金 0
合計	H18～H21年度実施課題 51課題(記載のない研究課題を含む)				

### 3-2) 地域密着課題(令和研究課題の主な課題)

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
ぎふクリーン農業をバックアップする重要病害防除技術の確立	ぎふクリーン農業の推進に当たって、野菜産地では難防除病害の多発により対応に苦慮しており、減化学農薬に関する技術開発が望まれている。	トマト、ホウレンソウ、イチゴを中心に薬剤耐性検定や生物防除試験等を行い、防除技術体系を確立する。	H20～22		合計 3,334 県費 1,667 外部資金 1,667

課題名	設定背景	研究概要	研究年度	共同研究機関	研究費(千円)
花き底面給水栽培における病害防除技術の確立と病原菌の検出技術開発	花き類の溶液栽培では、ピシウムなど水媒伝染性病害の被害が多発しており、防除対策の確立が求められている。	溶液中の水媒伝染性病原菌の密度を低下させる銀セラミックスを民間企業と共同で開発した。また、高温生育性ピシウム属菌のモニタリングに活用できる簡易検定法を開発した。	H17 ~19	岐阜大学 県内企業	合計 7,812 県費 3,906 外部資金 3,906
地域特産農産物緊急登録拡大推進事業	登録農薬がほとんど無く、病害虫防除対策が困難な地域特産野菜に対して、生産安定のための農薬登録拡大が強く望まれている。	農薬登録に必要な「作物残留試験」及び「薬効・薬害試験」を行い、農薬登録の拡大を実施した。	H15 ~		合計 10,748 県費 5,374 外部資金 5,374
農薬環境負荷低減対策事業	ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬飛散による非意図的汚染の実態把握やその対策が緊急の課題となっている。	果樹園で使用される大型防除機材(スピードスプレー)について、農薬の周辺への飛散実態を調査し、防風ネットと飛散低減ノズルの効果を確認した。	H17 ~19	中山間農業技術研究所	合計 2,366 県費 1,183 外部資金 1,183
合 計	H18～H21年度実施課題 7課題(記載のない研究課題を含む)				

## 4 研究の推進及び研究体制

### (1) 主な研究開発体制

#### 1) 縞葉枯病抵抗性「ハツシモ岐阜SL」の育成

研究背景	「ハツシモ」は縞葉枯病に罹病性で収量、品質の不安定性が問題になっている。「ハツシモ」の持つブランド力を生かしながら病害抵抗性を付与した品種の育成が求められている。															
目標	「ハツシモ」の縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統を開発するとともに、栽培技術の確立を図る。															
研究概要	縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統を開発し、品種特性を生かした栽培方法を検討する。															
期間	平成19年度～平成21年度（全研究期間 平成8年～平成21年度）															
予算	県費	2,997千円	外部資金	0千円	合計	2,997千円										
研究 代表者	氏名	所属	役職	分担												
荒井輝博	農業技術センター	専門研究員	品種育成													
共同 研究者	山田隆史	農業技術センター	専門研究員	栽培技術の確立												
	吉田一昭	農業技術課	技術主査	現地実証、栽培技術の普及												
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年に交配開始、平成14年まで戻し交配。平成18年、有望系統を「岐系200号」とする。</li> <li>平成19年、縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統「ハツシモ岐阜SL」を品種登録出願。</li> <li>平成20～21年、栽培技術確立に向けた試験を実施。</li> </ul>															
主要成果	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統「ハツシモ岐阜SL」を開発した。</li> <li>水稻連作及び大豆あと条件において、肥料の種類が生育、収量に及ぼす影響を検討し、特性を生かした栽培方法を明らかにした。</li> </ul>															
	論文	実績なし														
	学会発表	「ハツシモ縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統「ハツシモ岐阜SL」の育成と栽培方法の検討」：荒井輝博 日本作物学会東海支部 H21.9														
	特許等	その他 研究成果情報 縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統「ハツシモ岐阜SL」の奨励品種採用：山田隆史 H22.3予定														
研究体制 メリット	有望系統の特性調査を現地と平行して実施することにより、地域適応性の検討を効率的に行うことが出来る。															
技術移転 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度から岐阜県農政部農産園芸課により組織された「新ハツシモ普及検討委員会」に参画。</li> <li>農業改良普及センターによる実証はを平成20年度は3.4ha、平成21年度に77.6ha設置して栽培技術を検討。</li> <li>平成21年県水稻奨励品種に「ハツシモ岐阜SL」を採用。</li> <li>平成22年産で、既存「ハツシモ」（栽培面積約9,000ha）の栽培を、ほぼすべて「ハツシモ岐阜SL」に切り替える予定。</li> </ul>															

## 2) 花き新品種「フランネルフラワー」の育成

研究背景	花き類は他品目と比べ希少性が重視されるため、県駐在員を派遣していたオーストラリアからそこにしか自生しないフランネルフラワーを導入し、県の特産花きとして活用できいか検討した。													
目標	フランネルフラワーの優良個体を選抜して品種化し、岐阜県の特産花きとして定着を図ることで、ブランド化の確立に貢献する。													
研究概要	優良個体を選抜し、特性把握や増殖方法を検討して栽培体系を確立し、品種登録を行う。													
期間	平成10年度～平成21年度													
予算	県費	12,000千円	外部資金	0千円	合計	12,000千円								
研究代表者	氏名	所属	役職	分担										
	宇次原清尚	農業技術センター	所長	特性把握及び栽培体系の確立										
共同研究者	木村裕子	農業技術センター	主任研究員	優良個体の選抜及び増殖										
	※※※※	フランネルフラワー研究会	会長	生産現場における問題点等の把握										
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年～11年、オーストラリアのゴスフォード研究所から挿し木個体を導入。</li> <li>平成13年、3個体が開花し、矮性かつ四季咲性であったため、鉢物として活用できると判断した。平成14年から15年に優良個体の選抜と栽培特性の把握を実施。</li> <li>平成16年、安定した増殖方法を確立するとともに、品種登録のための特性調査を実施し、「フェアリーホワイト」と命名した。</li> <li>平成17年以降、当品種の普及に努めるとともに、さらに四季咲性の強い1品種、切り花用2品種を育成し、品種登録申請を実施した。</li> </ul>													
主要成果	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度：鉢花用「フェアリーホワイト」品種登録</li> <li>平成18年度：切り花用「ファンシースノー」品種登録</li> <li>平成21年度：フェアリーホワイトより四季咲性の強い鉢花用品種「エンジェルスター」、ファンシースノーより早生の切り花用品種「メルヘンスター」の品種登録申請。これにより、フランネルフラワーの出荷時期が拡大し、周年生産が可能になりつつある。</li> </ul>													
	論文	実績なし												
	学会発表	実績なし												
	特許等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「フェアリーホワイト」品種登録（登録日：2009年9月10日、登録番号：18363）、県内許諾中</li> <li>「ファンシースノー」品種登録（登録日：2009年9月10日、登録番号：18365）、県内許諾中</li> <li>「エンジェルスター」品種登録出願（登録出願申請：2009年11月10日、出願番号：24287）</li> <li>「メルヘンスター」品種登録出願（登録出願申請：2009年11月10日、出願番号：24288）</li> </ul>												
研究体制メリット	当センター研究員と地域の農業改良普及センター、生産農家の集まりである「フランネルフラワー研究会」が密接に連携した研究開発・普及体制をとっているため、研究成果及び育成品種の早期普及が可能になるとともに、生産現場で生じた問題点についても、迅速に研究を実施して解決を図る体制が出来ている。													
技術移転状況	平成21年現在、「フェアリーホワイト」は県下約20軒の花き生産農家で栽培、岐阜花き流通センター農協を通じて年間50万鉢を越える出荷実績があり、「ファンシースノー」も県内約10軒の農家で生産されており、岐阜県特産花きとしての地域を築くとともに、ブランド化に大きく貢献している。													

### 3) トマトの独立ポット耕による培養液循環システムの開発

研究背景	トマトは販売額65億円と県下トップの野菜で、生産の大部分は土耕栽培で行われているが、土壤への肥料集積や土壤病害の発生により平均収量は15t/10a程度と伸び悩んでいる。これらの対応策として、ロックウールを使用した養液栽培が検討されてきたが、病害抑制効果は低く、コスト負担となる接ぎ木栽培が不可欠であることや使用済みロックウールの廃棄等の問題から現場へは普及していない。また、近年は販売価格の低迷や農業者の高齢化が一層進行する中、後継者確保が困難になってきており、栽培技術の抜本的な改善方策が求められている。そこで、楽な作業姿勢で高収量・収益向上が図れるとともに病害を抑制し、環境に優しい循環栽培システムを開発する。								
目標	安全・安心なトマトを多収穫できる養液栽培システムを開発して「ぎふクリーン農業」を推進する。								
研究概要	トマトをベンチ上で1株ずつ栽培する低コストな養液栽培システム「独立ポット耕(掛け流し方式)」を開発する。また、廃液をゼロとする環境に優しい培養液循環栽培を行う際に問題となる、肥料バランスの崩れや土壤病害の拡散を防ぐため、新しい培養液処方、除菌システム、拮抗微生物の開発を行い、循環栽培システムを構築する。								
期間	平成18年度～平成20年度								
予算	県費	11,963千円	外部資金	0千円	合計	11,963千円			
研究代表者	氏名	所属	役職	分担					
	越川兼行	農業技術センター	野菜果樹部長	研究総括					
共同研究者	勝山直樹	農業技術センター	専門研究員	高収量栽培技術の確立					
	渡辺秀樹	農業技術センター	専門研究員	除菌装置を用いた培養液のクリーン化技術の開発					
	堀之内勇人	農業技術センター	専門研究員	拮抗微生物を利用した病害制御技術の開発					
	安田雅晴	農業技術センター	主任研究員	肥料バランスを維持する培養液処方の開発					
	※※※※	県内企業		除菌装置の開発					
進捗状況	「独立ポット耕(掛け流し方式)」は完成し、現地に導入されている。循環栽培技術については、培養液処方、除菌装置、拮抗微生物による病害抑制技術の各技術開発および循環栽培システムとしての総合試験による実用性評価が修了した。除菌装置の改良、拮抗微生物の市販化を進め、現場への普及を推進する。								
主要成果	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>50cm高のベンチ栽培による作業姿勢の改善、ポット栽培による土壤病害の拡大抑制を可能とする低コスト溶液栽培システム「独立ポット耕(掛け流し方式)」を開発し、3ヶ年連続して収量40t/10aを達成した。また、高収量を可能にする給液管理マニュアル等を作成した。</li> <li>無機銀系抗菌剤を使用した除菌フィルターを県内企業と共同で開発し、「ケンコーネ」として商品化した。</li> <li>拮抗微生物フザリウム・イクイセティを使用した微生物資材(試作)はトマト萎凋病、根腐萎凋病に高い発病抑制効果を示した。</li> <li>トマトの肥料吸収特性を明らかにし、その特性を基に循環栽培用の培養液処方を開発した。</li> <li>培養液処方、除菌装置及び拮抗微生物を用いた培養液循環栽培試験において、土壤病害の発生はなく、掛け流し栽培と同程度の40t/10a以上の収量及び果実品質を得ることができた。</li> </ul>								
	論文	農業技術体系野菜編 トマト「トマトの独立ポット耕栽培」(農山漁村文化協会編)							
	学会発表	不織布性ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培 第1報～第5報 (園芸学会H18秋季大会～H20秋季大会) トマト独立ポット耕栽培の開発 (農業機械学会関西支部報 H20)							
	特許等	トマトポット耕の商標登録 (登録日 平成21年2月5日)							

研究体制 メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター本所と南濃試験地との共同研究であり、本所での基礎的試験成果をトマト産地と直結している南濃試験地で生産者規模のハウスで実証試験を行うことで早期普及につながる。</li> <li>県内企業との共同研究であり、除菌装置等は試験中でも速やかな改良が出来、商品の早期開発につながる。</li> <li>県農政部農産園芸課と共同で、平成18年度から「ポット耕栽培研究会」を開催し、技術支援のみならず行政支援も行い、円滑な啓蒙普及が可能である。</li> </ul>
技術移転 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立ポット耕(掛け流し方式)」を、県内3企業及び県外1企業に技術移転した。</li> <li>独立ポット耕(掛け流し方式)」は、現在、県内4戸・90a、県外5戸・15aに導入されている。</li> <li>除菌装置に用いるフィルター「ケンコーネ(商品名)」を、県内企業と実施許諾契約を締結した。</li> </ul>

#### 4) カキ害虫（カキノヘタムシガ、フジコナカイガラムシ）の性フェロモンの開発及びクリーン防除技術の確立

研究背景	カキを加害するカキノヘタムシガとフジコナカイガラムシは、果実内部への食入や着色不良といった顕著な被害が特徴であり、薬剤散布の効果が低い重要害虫である。そのため、この両害虫に対する性フェロモンを利用した防除技術の開発が希求されている。								
目標	カキノヘタムシガとフジコナカイガラムシの性フェロモンを利用した防除技術を開発する。								
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カキノヘタムシガの性フェロモンについて、カキ園に合成性フェロモンを充満させ雄雌の交信を攪乱する防除技術を開発する。</li> <li>・フジコナカイガラムシの性フェロモンについて、雄の誘引性を利用した高精度発生予察に基づいた防除技術を開発する。</li> <li>・両種の性フェロモンを利用したカキ害虫のIPM防除体系を構築し、現地実証する。</li> </ul>								
期間	平成18年度～平成20年度								
予算	県費	0千円	外部資金	12,430千円	合計	12,430千円			
研究代表者	氏名	所属	役職	分担					
	鈴木俊郎	岐阜県農業技術センター	専門研究員	カキノヘタムシガの交信攪乱等を利用した防除技術の確立					
共同研究者	望月雅俊	(独)果樹研究所	上席研究員	外部資金「ダブルフェロモンと多機能型トラップによるカキ害虫IPMの確立」に関する研究総括					
	奈良井裕隆	島根県農業技術センター	専門研究員	フジコナカイガラムシに対する性フェロモン利用技術の開発					
	堤隆文	福岡県農業総合試験場	病害虫部長	カキ害虫IPMの現地実証試験					
進捗状況	カキノヘタムシガの性フェロモン剤は、県内カキ主要産地で量産試作による試験が行われ、農家から高い防除性能と使い勝手の良さについて高い評価を得ている。フジコナカイガラムシの性フェロモンは、発生予察について現地データを集計し、生産現場使用に適合するよう予測値の補正等、普及に向けた最終試験を実施している。								
主要成果	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキノヘタムシガの合成性フェロモンの西日本地域の個体群に対する誘引性を確認し、フェロモン剤（成分を入れたディスペンサー）を10aあたり90本設置することで、交信攪乱法による防除が可能になった。</li> <li>・性フェロモンにより、フジコナカイガラムシ雄成虫の越冬世代の発生ピーク時期が分かるようになった。これに基づく適期防除による防除効果を確認した。</li> <li>・両種の性フェロモンを利用して、カキノヘタムシガの交信攪乱による防除、フジコナカイガラムシの適期防除、さらに同時に発生する他の害虫類についても既存のフェロモン利用技術を用いて殺虫剤の散布回数を慣行に比べて30%削減したIPM体系を組み立てて、慣行防除と遜色のない防除効果を上げることが出来た。</li> </ul>								
	論文	実績なし							
	学会発表	<p>カキノヘタムシガの性フェロモントラップの形状と設置条件 第90回関西病害虫研究会大会(2008年)</p> <p>フェロモントラップによるカキノヘタムシガの発生消長の把握 第52回日本応用動物昆虫学会大会(2008年)</p> <p>フェロモントラップによるフジコナカイガラムシの次世代幼虫発生時期の予測 第53回日本応用動物昆虫学会大会(2009年)</p> <p>カキノヘタムシガ交信攪乱剤を基軸としたカキ害虫防除体系の実証 同上大会(2009年)</p> <p>カキノヘタムシガの合成性フェロモンによる交信攪乱試験 4th Asia-Pacific Conference on Chemical Ecology(2007年)</p>							
	特許等	特開2006-213622 カキのヘタムシガの交信攪乱剤、及びカキノヘタムシガの交信攪乱方法							
研究体制 メリット	各研究機関がこれまで研究蓄積してきた高度な知見を活用し、カキ害虫の減農薬栽培技術開発に関する研究の加速化を図ることが可能となった。また、カキの研究センターである独立行政法人農研機構果樹研究所ブドウ・カキ研究部、中国、九州地域で行った全国レベルの現地実証試験データは、製品開発の際に有効に活用されている。								

技術移転状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>カキノヘタムシガの性フェロモン剤は、農薬登録に向けた手続きが進んでおり、発売後は主要なカキ生産県を中心に年間2,000haでの利用が見込まれる。</li> <li>フジコナカイガラムシの性フェロモンについては、発生予察用資材として平成23年度の販売に向けた製品性能試験を実施している。</li> <li>県内では、農業改良普及センター、農業技術課と共同で、両資材の現地実証を中心とした連携研究を実施中である。</li> </ul>
--------	--

(2) その他、共同研究 区分 A: 产学官共同研究, B: 民間企業との共同研究, C: 大学との共同研究, D: 国・独法・他都道府県との共同研究

区分	研究課題	研究概要	研究期間	相手先	研究費(千円)
A	農薬飛散、省力に配慮したカキの先進的防除体系の開発	農薬飛散の心配がなく、省力的な防除技術の開発を行い、併せて安全・安心な「ぎふクリーン農業50」が達成できるカキの先進的な防除体系を構築する。	H21～H23	(独) 農研機構果樹研、県外企業3社	H21 2,600
A	施設園芸におけるドライミストを核とした夏期高温対策技術の確立	ドライミストの施設園芸利用を目的に、施設内における利用技術を確立する。さらに、生育促進・病害抑制効果及び夜間冷房、高温抵抗性誘導、根圏冷却との組合せ効果を明らかにする。	H21～H23	愛知県農総試、三重県農研、静岡県農林技研、名古屋市大、県外企業2社	H21 4,800
D	省資源型農業確立のための有機資材とその利用技術の開発	家畜ふん堆肥等を用いた肥料的価値の高い資材開発とその有効利用技術の開発を行う。	H21～H23	(独) 生研機構中央農研、岐阜県畜産研、山形県農研、新潟県農総研、岩手県農研	H21 2,300
D	省資源型農業確立のための生産技術体系の確立	甘長ピーマンにおける改正JAS法に適合した有機栽培技術(有機質肥料による肥培管理体系、農薬代替手法の組合せによる病害虫防除体系)の確立を行う。	H21～H23	(独) 生研機構中央農研、同野茶研、同東北農研、京都府農林セ	H21 1,653
A	イチゴ萎黄病を抑制する新規微生物資材の開発	イチゴ萎黄病の防除に有効な拮抗微生物資材を開発する。	H21	岐阜大、県外企業1社	H21 2,000
A	岐阜柿の規格外品および加工残渣を用いた化粧品素材、機能性食品の開発	カキの用途拡大のため、化粧品原料や食品原料への素材化技術を開発する。	H21～H22	県内企業2社、岐阜県国際バイオ研、岐阜薬大、島根大	H21 1,950
A	中山間地茶園向けの防除作業機の開発と減農薬防除技術の確立	中山間傾斜地茶園に対応した自走型送風式防除機を開発し、省力的な減農薬栽培技術を確立する。	H19～H21	滋賀県農技、(独) 農研機構野茶研、県外企業1社	H21 500H 20 1,000H 9 1,500

区分	研究課題	研究概要	研究期間	相手先	研究費(千円)
D	低濃度エタノールを用いた新規土壤消毒技術の開発	低濃度エタノールを用いた新規土壤消毒技術の実用化に向けた実証や地域条件に適応した最適技術を開発する。	H20～H23	(独)農環研、(財)日本園芸生産研究所、岐阜県中山間農研、神奈川県農技、千葉県農総研、徳島県農技、北海道中央農試	H21 2,150 H20 2,152
D	土壤由来温室効果ガス発生抑制システム構築	水田由来の温室効果ガスの抑制手法の検討と、県下農耕地における土壤中の炭素貯蔵量を調査する。	H20～H24	(独)農環研	H21 2,314 H20 2,335
B	トマトの独立ポット耕による培養液循環システムの開発	県下主要農産物であるトマトにおいて、栽培ベンチ、培養液除菌装置、有用微生物活用技術を組み合わせた環境にやさしい低コスト栽培システムを開発する。	H19～H20	県内企業1社	H20 11,963 H19 8,433
A	東海地域における小麦の梅雨前収穫作型の開発と高品質生産の実現	小麦赤かび病を回避するために、梅雨前収穫が確実にでき、かつ蛋白含量が適正になる高品質栽培技術を開発する。	H18～20	愛知県農総試、(独)農研機構近畿中国農研、県外企業1社	H20 950 H19 2,900 H18 950
C	バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成	バラ病害の根腐病及び根頭がんしゅ病に対して、複合的に抵抗性を持つ台木を育成するとともに生産技術も開発する。	H18～20	岐阜大	H20 1,300 H19 1,300 H18 1,300
A	東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発	原油価格高騰によるコスト増に対応するため、省エネ温度管理技術等を開発し、農業経営への効果を明らかにし、化石燃料30%以上の削減技術を確立する。	H18～20	三重県農研、愛知県総農試、(独)農研機構野茶研、愛知経済連、県外企業2社	H20 3,600 H19 5,600 H18 2,700
D	ダブルフェロモンと多機能型トラップを活用したカキ害虫IPMの確立	カキ害虫防除において、性フェロモン資材を有効活用し、化学農薬の使用量を大幅に削減できる総合防除体系を開発する。	H18～20	(独)農研機構果樹研、島根県農技、福岡県農総試	H20 2,530 H19 4,300 H18 4,600
D	農業環境規範遵守のための家畜ふん堆肥の肥効評価システムの確立	家畜ふん尿の肥料としての、速効的及び遅効的な窒素供給量を迅速に評価する方法を開発する。	H17～19	(独)農研機構中央農研、三重県農研、新潟県農総研、(財)畜産環境整備機構	H19 2,391 H18 2,975

区分	研究課題	研究概要	研究期間	相 手 先	研究費 (千円)
A	鉢物・緑化苗等における生分解性ポットの改良及び利用技術の開発	花きの生産・消費段階で大量の廃ポリポットが排出され、その処理が大きな問題となっている。このため、現在普及していない生分解性ポットを実用的なものに改良し、利用技術を開発する。	H17 ~19	愛知県農総試、三重県農研、名古屋大、静岡大、県外企業1社、県内企業1社	H19 4,000 H18 4,400
D	農業環境規範に適合する家畜ふん堆肥の肥効評価システムの確立	家畜ふん尿の肥料としての、速効的及び遅効的な窒素供給量を迅速に評価する方法を開発する。	H17 ~19	(独) 農研機構中央農研、三重県農研、新潟県農総研、(財)畜産環境整備機構	H19 2,975 H18 2,975

(3) 受託研究による研究開発

研究課題	研究概要	受託元	受託金額(千円)
新規農薬登録試験	新規農薬の登録促進のため、公的試験研究機関のデータが義務づけられているものについて試験研究を実施する。	岐阜県植物防疫協会	H21 2,568 H20 2,496 H19 2,576 H18 2,960
稲民間育種品種の評価試験	稲の民間育成品種について、縞葉枯病の抵抗性検定を行う。	(独)中央農研等	H21 84 H20 168 H19 42 H18 126
植物調節剤の実用化試験	植物生育調節剤及び除草剤の登録促進のため、公的試験研究機関のデータが義務づけられているものについて試験研究を実施する。	日本植物調節剤協会	H21 2,025 H20 1,943 H19 2,424 H18 3,408
おでいコンポストの利活用に関する研究	県下本巣市の集落排水処理施設で生産される汚泥コンポストの肥効特性や野菜、作物、果樹、花きへの利用について検討する。	岐阜県土地改良事業団体連合会	H21 900 H20 1,103 H19 1,103
水稻・野菜の適応性検定試験	国又は国の指定する機関で育成した新しい品種・系統の本県での適応性を検定する。	(独)農研機構中央農研等	H21 741 H20 754 H19 754 H18 767
天然植物抽出成分のバラうどんこ病に関する研究	ヒノキ抽出物のバラうどんこ病に対する防除効果について検討する。	県内企業	H21 150
土壤有用微生物を担持させたビール粕炭化物の農業分野への応用	拮抗微生物を吸着させたビール粕炭化物を用いてベニニア株腐病等土壤病害に対する防除効果を検討する。	県外企業	H19 500
低周波パルス磁界発生装置を用いたイチゴの生育研究	低周波パルスをあてることによるイチゴの生育、収量に及ぼす影響について検討する。	県内企業	H18 245

(4) 外部資金の取得状況

	採択課題名	事業名	交付元	研究費(千円)
21年度	施設園芸におけるドライミストを核とした夏期高温対策技術の確立	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	4,800
	省資源型農業確立のための有機資材とその利用技術の開発	農林水産技術会議運営交付金プロジェクト研究	農林水産省	2,300
	省資源型農業確立のための生産技術体系の確立	農林水産技術会議運営交付金プロジェクト研究	農林水産省	1,540
	イチゴ萎黄病を抑制する新規微生物資材の開発	地域イノベーション創出創造支援事業	(独)科学技術振興機構	2,000

	採択課題名	事業名	交付元	研究費(千円)
21年度	岐阜柿の規格外品および加工残渣を用いた化粧品素材、機能性食品の開発	地域イノベーション創出研究開発事業	経済産業省	1,950
	中山間地茶園向けの防除作業機の開発と減農薬防除技術の確立	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	500
	土壤由来温室効果ガス発生抑制システムの構築	土壤由来温室効果ガス計測・抑制技術実証事業	農林水産省	2,314
	低濃度エタノールを用いた新規土壤消毒技術の開発	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	2,150
	後作物残留実態調査	農薬残留対策総合調査	環境省	1,500
計	9 課題			
20年度	東海地域における小麦の梅雨前収穫作型の開発と高品質生産の実現	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	950
	バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	1,300
	東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	3,600
	ダブルフェロモンと多機能型トラップを活用したカキ害虫IPMの確立	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	3,530
	農業環境規範に適合する家畜ふん堆肥の肥効評価システムの確立	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	2,391
	後作物残留実態調査	農薬残留対策総合調査	環境省	1,150
	中山間地茶園向けの防除作業機の開発と減農薬防除技術の確立	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	1,000
	土壤由来温室効果ガス発生抑制システムの構築	土壤由来温室効果ガス計測・抑制技術実証事業	農林水産省	2,335
	低濃度エタノールを用いた新規土壤消毒技術の開発	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	農林水産省	2,152
	計	9 課題		
19年度	鉢物・緑化苗等における生分解性ポットの改良及び利用技術の開発	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	17,592 (4,000)
	東海地域における小麦の梅雨前収穫作型の開発と高品質生産の実現	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	2,900
	バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	1,300
	東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	2,900
	ダブルフェロモンと多機能型トラップを活用したカキ害虫IPMの確立	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	4,300

	採 択 課 題 名	事業名	交付元	研究費 (千円)
19年度	農業環境規範に適合する家畜ふん堆肥の肥効評価システムの確立	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	2,975
	野菜類のカドミウム低吸収・低蓄積機構の解明	農林水産技術会議運営交付金プロジェクト研究	農林水産省	2,000
	中山間地茶園向けの防除作業機の開発と減農薬防除技術の確立	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	1,500
計	8 課題			
18年度	鉢物・緑化苗等における生分解性ポットの改良及び利用技術の開発	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	18,849 (4,400)
	東海地域における小麦の梅雨前収穫作型の開発と高品質生産の実現	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	950
	バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	1,300
	東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	2,700
	ダブルフェロモンと多機能型トラップを活用したカキ害虫IPMの確立	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	4,600
	農業環境規範に適合する家畜ふん堆肥の肥効評価システムの確立	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	農林水産省	2,975
	野菜類のカドミウム低吸収・低蓄積機構の解明	農林水産技術会議運営交付金プロジェクト研究	農林水産省	2,500
	ポリフェノールを利用した肝脂質改善肥満予防素材の開発	地域新規産業創造事業技術開発費補助事業	経済産業省	1,000
	計	8 課題		

#### (5) 連携大学院活動

実績なし

#### (6) 他機関との交流・協力実績

##### 【県関係機関】

- 保健環境研究所：イチゴ（濃姫・美濃娘）からの健康有用物質の探索と実用化研究の連携、農薬残留分析
- 中山間農業研究所：水稻、花き育種、難防除病害虫対策
- 生物工学研究所：微生物農薬開発、花き育種、植物ウイルス検定
- 畜産研究所：高肥料成分堆肥の開発
- 国際バイオ研究所：カキ（富有）からの健康有用物質の探索と実用化研究の連携
- 農政部各課：
  - ・農政課
  - 市場調査の技術支援

・農産園芸課

作物種子生産、奨励品種設定調査、茶、野菜、花、果樹の生産振興

例：トマト独立ポット耕研究会への共同参画や元気な園芸特産産地育成対策事業における新規事業導入の審査

F B C (フラワー・プラボウ・コンクール) 花壇の中央審査 等

・農業技術課

ぎふクリーン農業推進、植物防疫事業、土づくり事業、農薬・重金属汚染対策、肥料検査、技術支援担当との連携

例：イチゴ栽培技術研究会、高設栽培研究会、フランネルフラワー研究会及び栽培技術研修会等の技術支援

各専門部会（作物、野菜、果樹、花き、環境）の技術提供

・畜産課

耕畜連携（家畜ふん堆肥の有効利用、飼料米生産振興）、レンゲ害虫対策

○病害虫防除所：病害虫発生予察への協力

○農業改良普及センター：連携研究、現地調査、技術支援等

【H18年度連携研究】

- ・高品質の小麦生産のための生育診断と施肥法 他3テーマ

(連携機関：農業技術課、岐阜地域農業改良普及センター、西濃地域揖斐農業改良普及センター)

【H19年度連携研究】

- ・ナバナ新品種の栽培技術の確立 他テーマ

(連携機関：農業技術課、岐阜地域農業改良普及センター)

【H20年度連携研究】

- ・「性フェロモンを利用したカキの減農薬防除実証試験 他2テーマ

(連携機関：農業技術課、岐阜地域農業改良普及センター、西濃地域揖斐農業改良普及センター)

【H21年度連携研究】

- ・カキ「早秋」の着果安定技術の確立

(連携機関：農業技術課、岐阜地域農業改良普及センター、西濃地域揖斐農業改良普及センター)

- ・縞葉枯病抵抗性「ハツシモ」の栽培技術の確立 他2テーマ

(連携機関：農業技術課、農産園芸課、岐阜地域農業改良普及センター、西濃地域農業改良普及センター、西濃地域揖斐農業改良普及センター、中濃地域中濃農業改良普及センター)

【国体ブランド研究】

- ・夏秋イチゴ現地試験を実施し、基肥の施肥改善および有望品種「すずあかね」を選定

(連携機関：中濃地域郡上農業改良普及センター、飛騨地域農業改良普及センター)

○岐阜県農業大学校：学生のインターンシップ受け入れ

○岐阜県農業高校等：学生のインターンシップ受け入れ

【県内機関(関係団体)】

○岐阜県農業共済組合連合会：損害評価委員として参画

○岐阜県米麦改良協会：水稻、麦、大豆の種子生産

○岐阜県植物防疫協会：新農薬登録試験の受託(データ提供)

○全農岐阜：イチゴ新規就農者研修施設(インキュベート農場)の技術支援

県育成切り花花き（トルコギキョウ、フランネルフラワー）の実施許諾

○岐阜県園芸特産振興会：岐阜県育成品種「濃姫」「美濃娘」の生産者配布のための優良種苗生産の実施  
　　県イチゴ共進会、県茶総合品評会に審査員として参画

【その他機関(大学等)】

○岐阜大学：共同研究（病原菌の遺伝子診断技術、拮抗微生物の開発等）への参画、学生のインターンシップ受け入れ協力等  
○東京農工大学：共同研究（カキノヘタムシガ性フェロモンの開発）への参画  
○国立長寿医療センター：共同研究（イチゴの抗血栓性評価と作用性の解明）への参画

## 5 成果の発信と実用化促進

### (1) 特許等 (特許、実用新案、品種登録、著作権、意匠) 出願・登録

	区分	発明者	発明の名称と概要	登録日等	実施状況
21年度	品種	宇次原清尚、木村裕子 他	フランネルフラワー「エンジェルスター」 フランネルフラワー「メルヘンスター」	平成21年11月10日 平成21年11月10日	
計			品種 2 件		
20年度	品種 商標	加藤克彦、雨宮剛 他 越川兼行、安田雅晴	バラ新品種「エクラン」 「トマトポット耕」の商標登録	平成20年8月6日 平成21年2月5日	県外企業
計			品種 1 件、商標 1 件		
19年度	特許	渡辺秀樹 他 3 名	「農薬の散布方法」の特許登録 施設トマト、キュウリ等の病害に対して、暖房ダクトで微生物農薬を散布することで効果的に防除する。	平成19年7月20日	県外企業
	品種	宇次原清尚、鈴村尚司 宇次原清尚、鈴村尚司 越川兼行、勝山直樹 他	カレンデュラハイブリッド「かれんシリーズ」 10品種 フランネルフラワー「ファンシースノー」 なばな「春なつみ」	平成19年3月19日 平成21年9月10日 平成19年3月26日	岐阜花き流通センター 岐阜花き流通センター
計			品種 3 件、特許 1 件		
18年度	品種	宇次原清尚、多田幸広、三輪俊貴 宇次原清尚、多田幸広、三輪俊貴	トルコギキョウ「エグゼパープル」 トルコギキョウ「エグゼピンク」 品種 2 件	平成21年7月31日 平成21年7月31日	種子販売 種子販売
計			品種 2 件		

### (2) 特許等にしていない技術・製品開発

	開発者	技術・製品の概要	技術移転の状況
21年度	安田雅晴、越川兼行	トマト独立ポット耕における循環栽培用培養液処方を開発	普及実績なし
	棚橋寿彦	家畜ふん堆肥中肥料成分の簡易測定技術を開発	共同研究機関とともに、「分析マニュアル」、「堆肥カルテシステム」を作成し、HPで公開中。 また、新評価法による県内堆肥リストを作成中。
計		2 件	
20年度	村元靖典	被覆尿素肥料を用いた小麦の早播栽培技術を開発	西濃、揖斐地域の「イワイノダイチ」栽培において同技術を導入 (H21産 1,230ha)
	松尾尚典	イチゴ高設ベンチ栽培における省エネ技術を開発	導入戸数20戸、導入面積246a (H20)
	勝山直樹	キュウリ施設栽培における省エネ技術を開発	普及実績なし
	新川猛	カキの果皮に含まれる美白成分の特定、メカニズムの解明、成分変動を解析	技術移転を行い、企業と商品化に向けた研究を開始した。
	福田富幸、宮崎暁喜	甘長ピーマンえそ症(仮称)の発生原因が土壌伝染性のウイルス (TMGMV) であることを解明	普及センターにより土壌消毒、ほ場移動、伝染環を絶つ取り組みを啓蒙中。

開 発 者		技術・製品の概要	技 術 移 転 の 状 況
20年度	堀之内勇人	ダイコン黒芯症の発生原因解明と防除技術を開発	高冷地ダイコン産地(118ha)において、カスミンボルドーを防除暦に採用し、一斉防除による病害対策を指導中。
	須賀しのぶ	地域特産農作物(マイナー作物)の農薬登録拡大	平成20年度までの登録数:16薬剤 新たに登録拡大した農薬は、各産地ごとの栽培暦に採用され、農薬の適正使用予備安定生産が図られている。
	渡辺秀樹	ピシウム属菌の簡易検出法を開発	大規模ミニバラ農家(海津市、年間生産量135万鉢)で定期的な養液診断を実施中。
	計	8 件	
19年度	荒井輝博、山田隆史	「ハツシモ岐阜SL」の現地実証を実施	岐阜、西濃、揖斐を中心に約0.2haの実証栽培を実施。
	松尾尚典、越川兼行	イチゴ新品種「美濃娘」の栽培技術を確立	県下生産量割合 約17% (第2位) (H21) 栽培面積 8.2ha 生産戸数 約100戸/県下375戸 (H21)
	渡辺秀樹	銀セラミックスを利用した除菌装置を開発	県内企業に実施許諾中。 溶液除菌装置「除菌タン君」16戸で導入。 除菌フィルター「ケンコーネ」12本を導入。
	天野昭子	散布農薬の飛散低減技術を開発	本技術は、県農業技術課作成のパンフレット「農薬の飛散を低減するために」に反映され、県内の農業改良普及センターをはじめとする指導機関に配布。
	計	4 件	
18年度	米山誠一	ぎふクリーン農業に対応した茶の施肥体系を確立	美濃いび茶栽培歴にぎふクリーン農業対応施肥体系を採用 (H20~)
	安田雅晴、越川兼行	トマト独立ポット耕システムを開発	県内4戸・90a、県外5戸・15aに導入 (H21)
	勝山直樹、福田富幸	タバココナジラミ侵入対策技術を開発	県下海津地域 普及面積17.3ha (H21)
	鈴木俊郎	レンゲ害虫アルファルファタコゾウムシの被害軽減技術を確立	岐阜県養蜂組合に対して技術講習会等で指導中。 また、岐阜地域の約100ha、西濃地域の約30haの水田でレンゲ種子の遅まきを実施中。
	計	4 件	

(4) 学術論文、学会発表、報道発表等

1) 学術論文(図書含む)

	タイトル	掲載誌
21年度	肥培管理がバラ根腐病の発病に及ぼす影響	関西病害虫研究会報51, 49-51
	岐阜県高冷地ダイコン産地で発生した黒芯症の原因とその対策	関西病害虫研究会報51, 45-47
	被覆尿素肥料を用いた小麦「イワイノダイチ」の高品質化施肥法	グリーンレポート第479号(2009.5)
	イチゴ高設栽培の環境調節による省エネルギー栽培技術	施設と園芸第147号40-42 (2009秋)
	フランネルフラワー「フェアリーホワイト」:岐阜県オリジナル品種	研究ジャーナルVol. 33, No. 1 (2010. 1)
	Instrumental Analysis of Terminal-conjugated Diemes for Reexamination of the Sex	Biosci. Biochem73(5), 1156-1162
計	6 件	
20年度	スピードスプレーヤ散布における防風ネットの農薬飛散防止効果について	関西病害虫研究会報 50, 189-191
	農業分野における農薬分析とその課題	関西病害虫研究会報 50, 23-24
	鉢花の底面給水栽培における銀セラミックスを用いた水媒伝染性病害の防除	関西病害虫研究会報 50, 87-89
	気になるトマトの病害虫対策	農耕と園芸 08(05), 54-56
	空気膜ハウスで省エネ栽培を	View (東海農政局編) 20, 13
	銀セラミックスで除菌	View (東海農政局編) 20, 12
	バラ根腐病の発生生態と防除	植物防疫 62(11), 597-600
	岐阜県におけるカキ害虫の動向と気象変動に対応する防除策	果実日本 64(3), 14-16
	Bait method to detect <i>Pythium</i> species that grow at high temperatures in hydroponic solutions	Journal of General PlantPathology 74 (6), 417-424
	Control of Fusarium crown and root rot of tomato in a soil system by combination of a plant growth-promoting fungus, <i>Fsarium equiseti</i> , and biodegradeable pots	Crop Protection 27, 859-864
	Growth characteristics of a small-fruit dwarf mutant arising from bud sport mutation in Japanese persimmon ( <i>Diospyros kaki</i> Thunb.)	Hort Science
	植物保護におけるフェロモン利用の現状と展望	今月の農業 53(1), 64-71
	物理的防除と生物防除の組み合わせ	微生物と植物の相互作用 ソフトサイエンス社 354-361
計	13 件	
19年度	カキ‘富有’の成熟に伴うカロテノイドの成熟特性	園芸学研究 6 (2), 251-256
	スピードスプレーヤーによる農薬散布時の薬剤飛散実態について	関西病害虫研究会報49, 59-61
	鉢花のマット給水栽培における頭上かん水が <i>Pythium</i> 病害の発病に及ぼす影響	関西病害虫研究会報49, 35-36
	ELISA法を用いた残留農薬簡易分析キット測定におけるホウレンソウのマトリクス効果について	日本農薬学会 32(3), 300-304
	底面給水法によるイチゴの育苗法	農耕と園芸5, 29-32
	注目のノンシャワー育苗	農耕と園芸
	注目のノンシャワー育苗	現代農業6, 246-251
	岐阜県飛騨地域で発生したホウレンソウべと病	関西病害虫研究会報49, 105
	研究紹介 高品質・低成本・環境にやさしい栽培技術を開発	農耕と園芸8, 118-121
	スピードスプレーヤにおけるドリフト低減対策の検討	今月の農業51(8), 31-35

	タイトル	掲載誌
19年度	<i>Fusarium equiseti</i> GF191 as an effective biocontrol agent against <i>Fusarium</i> crown and root rot of tomato in rock wool systems	Crop Protection 26, 1514-1523
	<i>Pythium</i> and <i>Phytophthora</i> species associated with root and stem rots of kalanchoe	Journal of General Plant Pathology 73(2), 81-88
	根っこを暖めて省エネでイチゴを	View(17), 13
	あぐりレポート「みんなに優しい トマトの独立ポット耕栽培」	View(17), 13
	カキのβ-クリプトキサンチン増強技術の開発	研究成果 第446集 食品の安全性及び機能性に関する総合研究-機能性-
	気象災害と対策 気象災害 雪害	茶大百科 農文協
	各茶産地の動向とブランド化戦略	茶大百科 農文協
	収穫後の高温処理によるカキ「富有」果肉中のカロテノイド含量の増強	園芸学研究 7(1), 123-128
	計 17 件	
18年度	イチゴ高設ベンチ栽培における培養液閉鎖系システムに関する研究（第4報）	園芸学会雑誌 75(1), 132
	ビニールシートベタがけと施設密閉の併用処理によるコナジラミ類の防除	関西病害虫研究会報 48, 91-93
	市販微生物農薬のダクト散布の適応性	関西病害虫研究会報 48, 3~9
	岐阜県における代替技術普及の取り組み夏秋トマト栽培における土壤還元消毒法の普及事例	野茶研研究集報 3, 43~47
	イチゴ新品種の最新情報 イチゴ・美濃娘	農耕と園芸 6, 42-43, 2006
	フェニトロチオン及びイミダクロブリド測定用ELISAキットにおけるキュウリのマトリクス効果について	日本農薬学会誌 31(4) 425-430
計	6 件	

## 2) 学会発表・講演

	タイトル	発表学会
21年度	イチゴ高設栽培の総合的省エネ対策技術	東海地域における原油価格高騰対応施設園芸技術の開発成果発表会
	抑制・半促成キュウリの総合的省エネ対策技術	同上
	ハツシモ縞葉枯病抵抗性同質遺伝子系統「ハツシモ岐阜SL」の育成と栽培法の検討	日本作物学会東海支部大会
	家畜ふん堆肥の種類に応じた窒素肥効評価法(第9報) 窒素肥効評価法の地温考慮による高精度化	日本土壤肥料学会2009年度大会
	畜産廃棄物を利用した肥培管理	日本土壤肥料学会2009年度大会シンポジウム
	カキの品種、成熟、栽培方法によるトリテルペノイド含有量への影響	平成21年度園芸学会秋季大会
	カキ「富有」における果実硬度の非破壊測定	同上
	市販の「有機リン/カルバメート系殺虫剤検査キット」の測定感度と作物試料からの農薬の水振とう抽出について	第32回農薬残留分析研究会
	岐阜県の地域特産物（マイナー作物）における作物残留分析	同上
	D L粉剤のドリフト調査方法について	第91回関西病害虫研究会大会
	ホウレンソウベと病菌新レースに対する抵抗性品種の利用	平成21年度日本植物病理学会関西部会

	タイトル	発表学会
21年度	アゾキシストロビンに耐性を示すトマト葉かび病菌のチトクロームb遺伝子のシークエンス解析	平成21年度日本植物病理学会関西部会
	イチゴ高設栽培の環境調節による省エネルギー栽培技術	関東東海北陸地域マッチングフォーラム
	送風式捕虫機を効果的に利用できるチャノミドリヒメヨコバイの虫数密度	日本茶業技術協会研究発表会
	乗用型管理機をベースとした送風式捕虫機および送風式農薬散布機の傾斜地性能	同上
	夏秋トマト雨よけ施設栽培における放射状裂果発生に及ぼす仕立て法の影響	日本農業気象学会東海支部大会
計	16件	
20年度	<i>Pythium aphanidermatum</i> によるポインセチア根腐病の発生	平成20年度日本植物病理学会大会
	植物生育促進菌類 <i>Fusarium equiseti</i> を担持させたビール粕成型炭のトマト萎凋病及びホウレンソウ萎凋病の防除効果	同上
	薬剤散布がトマトかいよう病菌の二次伝染に及ぼす影響	第90回関西病害虫研究会大会
	岐阜県で発生したダイコン黒芯症とその発生要因	同上
	カキノヘタムシガのフェロモントラップの形状と設置条件	同上
	家畜ふん堆肥の種類に応じた窒素肥効評価法（第7報） 有機成分を加味した豚ふん堆肥の窒素無機化パターのモデル化	日本土壤肥料学会2008年度大会
	メタラキシル粒剤とシアゾファミド水和剤を用いたホウレンソウベと病の防除	平成20年度日本植物病理学会関西部会
	高温性ピシウム属菌の水耕養液中からの簡易検出	同上
	カスガマイシン・銅水和剤及び野生種エンバク（ハイオーツ）を用いた大根黒芯症の防除	平成21年度日本植物病理学会大会
	トマト葉かび病菌におけるアゾキシストロビン耐性菌の発生	同上
	カキ果皮のメラニン生成抑制作用と活性成分の変動	平成20年度園芸学会秋季大会
	カキ‘太秋’の条紋と黒変汚損果に関する研究	同上
	不織布製ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培（第5報）	同上
	培養液処方の違いが、生育及び収量に及ぼす影響	同上
	冬春期のキュウリ栽培における空気膜の利用方法及び省エネ効果	同上
	鶏ふん堆肥のアンモニア態窒素による窒素肥効評価法の検証	日本土壤肥料学会中部支部第88回例会
	自走型送風式捕虫機による茶吸汁性害虫の防除効果	日本茶業技術協会 研究発表会
	傾斜地茶園における減農薬防除作業機の開発	同上
	フェロモントラップによるフジコナカイガラムシの次世代幼虫発生時期の予測	第53回日本応用動物昆虫学会大会
	岐阜県におけるトマト葉かび病菌のアゾキシストロビンに対する感受性低下	第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム
	カキノヘタムシガ交信かく乱剤を基軸としたカキ害虫防除体系の実証	第53回日本応用動物昆虫学会大会
	パイプダスターを用いたDL粉剤散布時のドリフト実態調査	日本農薬学会第34回大会
計	21件	
19年度	メンブレンフィルターを用いた水中の植物病原菌の検出	平成19年度日本植物病理学会大会
	家畜ふん堆肥の種類に応じた窒素肥効評価法 第2報 家畜ふん堆肥の速効的・緩効的窒素とその評価法（その1）	日本土壤肥料学会2007年度大会
	カキノヘタムシガの合成性フェロモンによる交信かく乱試験	4th Asia-Pacific Conference on Chemical Ecology 137
	岐阜県飛騨地域で発生したホウレンソウベと病	第89回関西病虫害研究会大会

	タイトル	発表学会
19年度	鉢花のマット給水栽培における頭上かん水が <i>Pythium</i> 病害の発病に及ぼす影響	第89回関西病害虫研究会大会
	不織布製ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培 (第4報) ポットへの生分解性資材の利用が、培地温、生育及び収量に及ぼす影響	平成19年度園芸学会秋季大会
	イチゴ高設栽培における根圈変温管理技術の生育・収量への影響	同上
	カキのビタミンC含量に及ぼす品種、成熟および栽培方法の影響	同上
	カキ‘平核無’由来小果枝変わり系統の果実生長特性	同上
	フェロモントラップによるカキノヘタムシガの発生消長の把握	第52回日本応用動物昆虫学会大会
	カキのビタミンC含量に及ぼす環境要因の影響	平成19年度日本園芸学会秋季大会
計	11件	
18年度	カキのカロテノイド生合成系控訴遺伝子の発現に及ぼす1-メチルシクロプロパンの影響	平成18年度日本園芸学会東海支部大会
	キンセンカ属の種間雑種植物から複二倍体植物の作出	同上
	夏秋イチゴの可搬式高設ベンチの開発	同上
	不織布ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培(第1報) 培地量が生育、収量に及ぼす影響	平成18年度日本園芸学会秋季大会
	不織布ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培(第2報) 培養液濃度が生育、収量に及ぼす影響	同上
	不織布ポットを利用したトマト独立ポット耕栽培(第3報) 生育ステージと養分吸収量との関係	同上
	<sup>15</sup> Nトレーサー法によるカキの葉面散布における窒素の結果母枝間の移行	平成18年度日本園芸学会秋季大会
	カキ粉末の作成行程の違いによる抗酸化ビタミン含量の変化	同上
	市販ELISAキット測定におけるキュウリの測定妨害について	第88回関西病害虫研究会大会
	<i>Phytophthora</i> sp.によるキク疫病の発生(病原菌追加)	平成18年度日本植物病理学会関西部会
	植物生育促進菌 <i>Fusarium equiseti</i> とペーパーポットを組合せたホウレンソウ萎凋病菌の防除効果	平成18年度日本植物病理学会大会
	ゼラニウム茎腐病菌 <i>Pythium irregularare</i> の伝染源	同上
	イネ粉剤の農薬飛散量調査方法について	第29回農薬残留分析研究会
	簡易分析キット(ELISA法)測定におけるホウレンソウのマトリクス効果について	同上
	Investigation of the seasonal variation in emergence hytoplankton and the pesticide outflow into paddy drainage	11th IUPAC international congress of pesticide chemistry
	Fruit-specific V-ATPase Suppression in Antisense-Transgenic Tomato Leads Smaller Fruits with Few Seeds.	27th International Horticultural Congress & Exhibition (IHC2006)
	平成18年度豪雪の茶樹への影響	日本茶業技術協会 研究発表会
計	17件	

### 3) 報道発表等

	タイトル	発表手段
21年度	フランネルフロー鉢物新品種「エンジェルスター」開発	日本農業新聞
	夏秋イチゴ産地化に本腰	日本農業新聞

	タイトル	発表手段
21年度	殺菌剤耐性性菌研究会シンポ開く	新農林技術新聞
	瑞穂市における「エクラン」の栽培	NHK岐阜放送
	もうかるトマト新戦略	日本農業新聞
	岐阜清流固体で県産品PR	日本農業新聞
	小麦施肥 緩効性に注目	日本農業新聞
	柿害虫に新防除法	日本農業新聞
計	8 件	
20年度	肌で感じた岐阜園芸の活気	園芸新聞
	岐阜からばたく フランネルフラワー	日本農業新聞
	トルコギキョウ 新品種 本格栽培	日本農業新聞
	トルコギキョウ新品種「ひだの雪姫」	中日新聞・岐阜新聞・読売新聞
	トルコギキョウ 好評の新品種登場	日本種苗新聞
	新技术で省エネ（重油対策研究の最前線）	日本農業新聞
	空を見上げて「披露宴彩る ひだの雪姫」	読売新聞
	ホットトイブニング岐阜 成果検討会の発表風景	NHK岐阜放送
	「ハツシモ」改良 病気に強い品種	中日新聞
	水稻、柿新技術を披露 「ハツシモ岐阜SL」栽培ポイントを解説	日本農業新聞
計	10 件	
19年度	フランネルフラワーフェア開催	中日新聞、岐阜新聞、日本農業新聞
	フェアリーホワイト初出荷	日本農業新聞
	第194・195回種苗登録新品種の特徴 「美濃娘」	農業共済新聞
	新品種のトルコギキョウ「スターダスト」初出荷	日本農業新聞
	ハツシモ農薬削減へ 県が試験 縞葉枯病の抵抗品種	日本農業新聞
	切り花産地のオリジナル品種（トルコギキョウ）	日本農業新聞
	知事にフランネルフラワー「フェアリーホワイト」を贈呈	日本農業新聞、岐阜新聞、中日新聞他
	切り花産地のオリジナル品種（バラ）	日本農業新聞
	新品種「かれん」登録申請	岐阜新聞、中日新聞、読売新聞
	NHKほっとイブニング フランネルフラワー	NHK
	キンセンカ「かれん」栽培 来年度から本格出荷	日本農業新聞
	営農情報室 トマトの独立ポット耕栽培 一上一	日本農業新聞
	営農情報室 トマトの独立ポット耕栽培 一下一	日本農業新聞
	NHKほっとイブニング 新品種の育成による花き業界の活性化	NHK
	小輪トルコギキョウ 鉢花栽培手応え	日本農業新聞
	暖房機ダクトを使った灰色かび病防除	日本農業新聞
	トルコギキョウ「ひだの雪姫」に期待 白の大輪系八重咲き	日本農業新聞
	トルコギキョウ新品種が大賞に	日本農業新聞、岐阜新聞
計	18 件	

	タイトル	発表手段
18年度	イチゴ養液栽培 排液をリサイクル クレソンで窒素吸収 岐阜県が新システム	日本農業新聞
	切り花用フランネルフラワー日本一の産地めざす	日本農業新聞
	タバココナジラミ類防除 べた掛け蒸しが効果	日本農業新聞
	フランネルフラワー「フェアリーホワイト」高評価	日本農業新聞
	トマトポット耕について	日本農業新聞
	トマトポット耕研究会、現地視察等の報道	日本農業新聞
	フェアリーホワイトが3賞を受賞	日本農業新聞
	サイバーナビ 農業技術センター育成品種紹介	岐阜テレビ
計	8 件	

## 6 技術支援

### (1) 指導・相談の件数（※行政機関との連絡会議等での指導・相談を含む）

	件 数	内 訳				具体的な内容
		現地での指導	来所での指導	電話での相談	行政対応等	
21年度	1020件 (12月までの実績)	139件	446件	235件	200件	作物、野菜、果樹、茶、花き、病害虫防除、土壤肥料、農薬等に対する技術相談、各種分析・診断指導、行政会議等での技術支援
20年度	1822件	223件	779件	517件	303件	作物、野菜、果樹、茶、花き、病害虫防除、土壤肥料、農薬等に対する技術相談、各種分析・診断指導、行政会議等での技術支援
19年度	1484件	191件	672件	395件	226件	作物、野菜、果樹、茶、花き、病害虫防除、土壤肥料、農薬等に対する技術相談、各種分析・診断指導、行政会議等での技術支援
18年度	1780件	216件	782件	498件	284件	作物、野菜、果樹、茶、花き、病害虫防除、土壤肥料、農薬等に対する技術相談、各種分析・診断指導、行政会議等での技術支援

### (2) 指導・相談による具体的な成果（企業での活用、研究課題化等主なもの）

#### 【作物関係】

- ハツシモ岐阜S Lの栽培法：現地からの要望により、新しい直播栽培技術について研究課題の中で実施。

#### 【花き関係】

- フランネルフラワー、トルコギキョウの栽培法：生産者からの要望により、研究会の中で品種特性、栽培技術を指導。
- 実バラの高品質栽培技術：生産者からの要望により、現地で栽培技術等を指導。

#### 【野菜・果樹関係】

- イチゴ高設ベンチ栽培の培地連用：経費・労力削減のための培地連用の要望を受け、培地の殺菌方法や収量性について検討を実施。
- イチゴ高設ベンチ栽培の西日対策：第1腋果房の出蕾遅れの対策の要望を受け、西日遮光等の検討を実施。
- 濃姫栽培管理法：現地からの要望により、品種特性に合った栽培管理法を明らかにし、関係機関と連携しながら現地指導を実施。
- 美濃娘不受精果対策：普及センター等と連携しながら現地の事例調査を実施し、原因究明とその対策を指導。
- トマト独立ポット耕の循環培養液処方：環境に優しい農業の要望により循環培養液処方を開発した。
- カキの奇形葉発生原因の究明：現地からの要望によりカキの奇形葉発生原因を究明し対策の徹底を行った。
- 早生カキの栽培管理法：現地からの要望により、早生甘カキの品種特性に合った栽培管理法について現在検討中。
- ナバナの品種育成：現地から収穫作業の平準化の要望を受け、晚生ナバナの品種育成を行った。
- 甘長ピーマンのえそ症の原因究明：現地からの要望により、甘長ピーマンのえそ症の原因究明(ウイルスの特定)を行い、対策技術を指導。
- 転作カブの生育障害の原因究明：現地からの持込みにより原因を究明した結果、ホウ素欠乏が疑われ、その対策を指導。

#### 【環境関係】

- すくなカボチャ腐敗症の原因解明：病原菌の特定及び発生要因の解明とともに、対応策を指導（中小企業技術開発支援事業で対応）。
- 鉢花新病害の原因解明：ポットマム疫病、ポインセチア根腐病、フランネルフラワー苗立枯病の病原菌を特定し、対応策を指導。
- 野菜新病害の原因解明：トマト萎凋病菌の新レースを接種試験により確認。病害虫発生予察特殊報を準備中。
- レンゲ害虫「アルファルファタコゾウムシ」対策調査：岐阜県養蜂連と共同で、天敵寄生蜂の定着状況を継続して調査中（中小企業技術開発支援事業で対応）
- トマト土壤病害の病原菌の判定：現地で判定が困難な青枯病について判定用培地を作成・配布（4箇所、のべ160個）して、対応策を指導。
- 家畜ふん堆肥を使用した減化学肥料栽培：本所で開発した肥料成分簡易分析を実施し、化学肥料減肥となる施肥設計を指導。
- 使用農薬の残留調査：簡易キットによる出荷農産物の自主検査方法を検討し、現地に紹介。また、散布後の農薬動態について外部資金を獲得し課題化。
- 散布農薬の飛散防止調査：農薬散布方法等の違いによる飛散防止効果の確認について、調査用感水紙の配布や調査設計・調査方法の指導を実施。

(3) 依頼検査の件数（行政・一般検査）

	件 数	金額（千円）	備 考（具体的な内容など）
21年度	11	—	登録肥料分析： 7件（16項目）、収去肥料分析： 4件（18項目）
計	11件		
20年度	15	—	登録肥料分析： 11件（24項目）、収去肥料分析： 4件（18項目）
計	15件		
19年度	19	—	登録肥料分析： 1件（2項目）、収去肥料分析： 18件（105項目）
計	19件		
18年度	12	—	登録肥料分析： 2件（4項目）、収去肥料分析： 10件（29項目）
計	12件		

(4) 技術講習会（主に研究所が主催する企業・生産者・技術者との技術講習会（交流会も含む）開催実績）

	開催日	場 所	技術講習会等の名称	対 象 者	概 要	出席者数
21年度	4月 7日	所内及び糸貫町	「美濃娘」リーダー研修会	農業者等	「美濃娘」の品種特性と栽培管理のポイントについて	100名
	4月 10日	岐阜市内	岐阜バラ会通常総会	農業者等	バラ会収支決算・予算報告	20名
	5月 12日	揖斐川町	実バラ研究会	農業者等	高品質実バラ生産のための栽培技術指導	25名
	5月 20日	所内	水稻直播研究会	普及関係者等	鉄コーティングによる直播栽培技術について	20名
	5月 27日	西濃地区他	小麦産地視察検討会	行政関係者等	小麦成熟期の生育状況の検討	60名
	6月 18日	郡上市	フランネルフラワー栽培研修会	農業者等	農家生育調査、指導	12名
	6月 23日	糸貫町	糸貫イチゴ研究会	農業者等	イチゴの育苗管理について	30名
	6月 24日	岐阜市	新ハツシモ研修会	農業者等	ハツシモ岐阜SLの特性と栽培法	200名
	6月 26日	三重県津市	省エネ技術成果発表会	研究関係者	実用化事業の成果の検討	80名
	6月 26日	美濃加茂市他	フェアリーホワイト栽培研修会	農業者等	農家生育調査、指導及び研修会	10名
	7月 2日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	イチゴの育苗管理及び高設栽培の準備	11名
	7月 16日	岐阜市	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	25名
	7月 17日	岐阜市	トルコギョウ・フランネルフラワー栽培研修会	農業者等	栽培技術研修会	11名
	7月 23日	本巣市	イチゴ生産者大会	農業者等	「濃姫」「美濃娘」導入による経営改善について	300名
	7月 24日	揖斐川町	実バラ研究会	農業者等	高品質実バラ生産のための栽培技術指導	25名
	7月 28日	中津川市	フランネルフラワー栽培技術研修会	農業者等	農家生育調査、指導及び研修会	6名
	7月 29日	所内	輪之内町イチゴ栽培研修会	農業者等	「濃姫」栽培のポイントについて	11名
	8月 3日	揖斐川町	新ハツシモ生産者研修会	農業者等	ハツシモ岐阜SLの特性と栽培法	90名
	8月 3日	所内	イチゴ栽培技術検討会	農業者等	イチゴ栽培技術の統一	20名
	8月 5日	美濃加茂市	新ハツシモ生産者研修会	農業者等	ハツシモ岐阜SLの特性と栽培法	50名
	8月 17日	所内	水稻直播研究会	普及関係者等	鉄コーティングによる直播栽培技術について	15名
	8月 25日	美濃市等	水稻原種・一般採種ほ現地研修会	農業者等	種子生産技術の向上	20名
	8月 26日	郡上市	夏秋イチゴ現地検討会	指導機関	夏秋イチゴ栽培の現地中間検討会	10名
	8月 28日	揖斐川町	実バラ研究会	農業者等	高品質実バラ生産のための栽培技術指導	25名

	開催日	場 所	技術講習会等の名称	対 象 者	概 要	出席者数
	8月31日	羽島市	水稻採種ほのほ場審査研究会	農業者等	種子生産技術の向上	20名
	9月29日	大垣市	新規栽培品目「プロッコリー」現地検討会	農業者等	機械化体系導入状況と問題点の把握	20名
	9月30日	郡上市	夏秋イチゴ現地検討会	農業者等	現地試験ほ場における栽培指導	8名
	10月20日	各務原市	国体に向けたブランド化シポジウム	行政関係者等	国体に向けたブランド化品目の紹介	150名
	11月19日	所内	カキ樹幹処理技術研修会	農業者等	カキの樹幹処理技術について	25名
	12月1日	名古屋市	マッチングフォーラム	行政関係者等	省エネ技術の成果発表	200名
	12月9日	北方町	フランネル研究会	農業者等	栽培技術研修会	18名
	12月25日	揖斐川町	実バラ反省会	農業者等	高品質実バラ生産のための栽培技術指導	21名
	計	32回				
20年度	4月24日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会等	11名
	4月24日	岐阜市	イチゴ栽培技術検討会	農業者等	インキュベート農場技術支援	15名
	5月15日	所内	フランネル研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	5月22日	岐阜市	岐阜市柿共販振興会	農業者等	情報交換会	110名
	6月19日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ育苗現地検討会	農業者等	イチゴ育苗研修会	11名
	6月24日	本巣市	糸貫イチゴ技術部会研修会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	7月10日	岐阜市	カキブランド化研究会	行政関係者等	情報交換会	20名
	7月14日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	7月14日	岐阜市	岐阜市園芸振興会花き部会研修会	農業者等	栽培技術研修会	24名
	7月15日	所内	ナシ研修会	農業者等	栽培技術研修会	30名
	7月16日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	7月24日	中津川市他	恵那フランネル研究会	農業者等	栽培技術研修会	4名
	7月29日	揖斐川町	揖斐イチゴ研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	7月29日	海津市等	新ハツシモ実証ほ担当者研修会	普及関係者等	ハツシモ岐阜SLの特性と栽培法	35名
	7月30日	所内	フランネル研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	8月9日	本巣市	糸貫イチゴ研修会	農業者等	栽培技術研修会	50名
	8月11日	郡上市	夏秋イチゴ現地検討会	農業者等	夏秋イチゴ中間現地検討会	10名
	8月27日	所内	イチゴ技術研究会	指導機関	イチゴ栽培技術の統一	15名
	8月22日	所内	切り花フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	7名
	9月9日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	9月10日	岐阜市	新ハツシモ現地研修会	行政関係者等	ハツシモ岐阜SLの特性	30名
	9月11日	高山市	夏秋イチゴ飛騨地域現地検討会	農業者等	夏秋イチゴ中間検討会	10名
	10月1日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ栽培研究会	農業者等	栽培指導研修会	10名
	10月2日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	10月15日	富加町他	中濃イチゴ高設ベンチ栽培研究会	農業者等	栽培技術研修会	60名
	10月10日	本巣市	太秋研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	11月3日	揖斐川町	揖斐イチゴ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	11月25日	揖斐川町	揖斐イチゴ高設ベンチ栽培研究会	農業者等	栽培技術研修会	50名
	11月26日	海津市	トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	26名

	開催日	場 所	技術講習会等の名称	対 象 者	概 要	出席者数
20年度	12月9日	郡上市	夏秋イチゴひるがの栽培研修会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	12月18日	所内	フランネル研究会	農業者等	栽培技術研修会	8名
	12月17日	所内	梨振興会剪定講習会	農業者等	栽培技術研修会	8名
	1月20日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研究会	15名
	1月27日	岐阜市	美濃茶研修会	農業者等	茶の新品種導入について	80名
	1月30日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	80名
	2月5日	揖斐川町	揖斐小ギク部会研究会	農業者等	栽培技術研修会	28名
	2月10日	揖斐川町	揖斐イチゴ高設ベンチ栽培研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	計	37回				
19年度	4月5日	所内	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	4月17日	郡上市	高鷲ダイコン病虫害研修会	農業者等	黒芯症・キスジノミハムシ対策について	8名
	4月23日	岐阜市	えだまめ反省会	農業者等	栽培技術研修会	80名
	4月27日	神戸町	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会等	10名
	5月25日	岐阜市	夢ローズ委員会	農業者等	情報交換会	28名
	5月27日	岐阜市	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	30名
	5月28日	所内	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	5月30日	海津市	半促成キュウリの品種比較研究会	農業者等	情報交換会	13名
	5月30日	岐阜市	夢ローズ委員会	農業者等	情報交換会	17名
	6月8日	神戸町	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	16名
	6月8日	郡上市	高鷲ダイコン病害虫研究会	農業者等	黒芯症・キスジノミハムシ対策について	8名
	6月15日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	9名
	6月20日	岐阜市	岐阜バラ会青年部	農業者等	情報交換会	13名
	7月12日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	6名
	7月24日	揖斐川町	揖斐川イチゴ育苗研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	7月25日	美濃加茂市	中濃地域鉢花研究会	農業者等	栽培技術研修会	16名
	8月3日	高山市	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	11名
	8月23日	郡上市	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	18名
	9月11日	飛騨市	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	11名
	9月13日	揖斐川町	揖斐イチゴ高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	10月10日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	9名
	10月18日	富加町	中濃高設ベンツ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	10月9日	本巣市	カキ「太秋」研究会	農業者等	栽培技術研修会	50名
	11月8日	揖斐川町	揖斐イチゴ栽培研修会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	11月13日	所内	トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	17名
	11月13日	海津市	トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	40名
	11月29日	所内	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	22名
	12月11日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	12月19日	岐阜市	夢ローズ委員会	農業者等	情報交換会	18名

	開催日	場 所	技術講習会等の名称	対 象 者	概 要	出席者数
19年度	2月 20日	岐阜市	フランネルフラワー生産向上検討会	農業者等	栽培技術研修会	9名
	1月 21日	岐阜市	岐阜バラ会研究会	農業者等	情報交換会等	29名
	1月 24日	所内	トルコギキョウひだの雪姫研究会	農業者等	栽培技術研修会	17名
	2月 19日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	2月 26日	海津市	トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	35名
	計	34回				
18年度	4月 21日	岐阜市	えだまめ反省会	農業者等	栽培技術研修会	80名
	4月 21日	岐阜市	岐阜バラ会	農業者等	情報交換会等	35名
	4月 21日	神戸町	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会等	35名
	5月 24日	岐阜市	岐阜バラ会青年部研究会	農業者等	情報交換会	15名
	5月 22日	所内	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	6名
	5月 26日	海津市	トマトの黄化葉巻対策	農業者等	情報交換会	80名
	6月 9日	神戸町	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	6月 13日	海津市	トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	45名
	6月 14日	岐阜市	岐阜バラ会青年部研究会	農業者等	情報交換会	15名
	6月 15日	富加町	中濃イチゴ高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	6月 19日	揖斐川町	揖斐イチゴ高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	6月 28日	所内	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	6月 27日	本巣市	美濃娘研究会	農業者等	「美濃娘」の品種特性と栽培のポイント	80名
	7月 3日	所内	トルコギキョウ品種検討会	農業者等	栽培技術研修会	6名
	7月 10日	高山市	飛騨花き研究会	農業者等	栽培技術研修会	23名
	7月 21日	所内	フランネル栽培研修会	農業者等	栽培技術研修会	21名
	7月 28日	所内	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	17名
	8月 8日	揖斐川町	揖斐高設ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	8名
	8月 17日	郡上市	高鷲ダイコン病害虫研究会	農業者等	黒芯症・キスジノミハムシ対策について	4名
	8月 22日	海津市	トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	30名
	8月 24日	郡上市	高鷲ダイコン病害虫研究会	農業者等	黒芯症・キスジノミハムシ対策について	2名
	9月 11日	海津市	ナバナ有望系統現地検討会	農業者等	栽培技術研修会	8名
	9月 12日	飛騨市	JA飛騨トルコ品種検討会	農業者等	栽培技術研修会	40名
	9月 22日	岐阜市	岐阜市鉢花研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	9月 25日	本巣市	カキ早秋研究会	農業者等	栽培技術研修会	80名
	10月 6日	本巣市	カキ太秋研究会	農業者等	栽培技術研修会	58名
	10月 6日	揖斐川町	揖斐イチゴ高設ベンチ検討会	農業者等	栽培技術研修会	10名
	10月 10日	富加町	中濃ベンチ研究会	農業者等	栽培技術研修会	15名
	10月 11日	所内	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	11名
	10月 16日	揖斐川町	揖斐イチゴ研修会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	11月 1日	岐阜市	夢ローズ委員会	農業者等	情報交換会	20名
	11月 7日	海津市	トマトポット耕栽培研究会	農業者等	栽培技術研修会	40名

	開催日	場 所	技術講習会等の名称	対 象 者	概 要	出席者数
	11月13日	所内	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	7名
	11月14日	高山市	農薬飛散防止事業結果検討会	普及関係者等	農薬のドリフト対策について	11名
	11月14日	郡上市	ダイコン病害虫研究会	農業者等	黒芯症・キスジノミハムシ対策について	5名
	11月16日	神戸町	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	12名
	11月22日	岐阜市	岐阜バラ会青年部	農業者等	情報交換会	14名
	12月 8日	所内	フランネルフラワー研究会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	12月21日	所内	美濃トルコギキョウ研究会	農業者等	栽培技術研修会	11名
	1月 16日	本巣市	カキ早秋検討会	農業者等	栽培技術研修会	20名
	1月 23日	海津市	園芸特産振興会研修会	農業者等	栽培技術研修会	60名
	1月 31日	岐阜市	岐阜バラ会研修会	農業者等	情報交換会、記念講演等	28名
	2月 6日	海津市	第4回トマトポット耕研究会	農業者等	栽培技術研修会	30名
	3月 7日	岐阜市	夢ローズ委員会	農業者等	情報交換会	14名
計	44回					

## 7 人材の育成

### (1) 研究員の育成体制（派遣研修等実績 技術習得研修）

	氏名	派遣先機関	実施期間	内容
21年度	野菜・果樹部 専門研究員 菊井 裕人	野菜茶業研究所	12月1日～2月28日	研修テーマ：エダマメの栄養成分について
	野菜・果樹部 専門研究員 勝山 直樹	農林水産技術会議筑波事務所	12月14日～12月16日	研修テーマ：農林水産省中堅研究者研修
	環境部 専門研究員 渡辺 秀樹	三重県農業技術研究所	5月14日	研修テーマ：薬剤耐性菌診断技術について
	環境部 専門研究員 渡辺 秀樹	農業環境技術研究所	8月5日～8月6日	研修テーマ：薬剤耐性菌診断技術について
20年度	花き部 主任専門研究員 加藤 克彦	農林水産技術会議筑波事務所	12月3日～12月5日	研修テーマ：農林水産省中堅研究者研修
	環境部 主任専門研究員 市橋 秀幸	森林総合研究所	7月8日～7月11日	研修テーマ：ケナガコナダニ同定技術について
	環境部 専門研究員 渡辺 秀樹	農業環境技術研究所	6月17日～6月20日	研修テーマ：薬剤耐性菌診断技術について
19年度	作物部 主任研究員 村元 靖典	農林水産技術会議筑波事務所	10月3日～10月5日	研究テーマ：農林水産省若手研究者研修
	野菜果樹部 専門研究員 鈴木 哲也	農林水産技術会議筑波事務所	11月4日～11月9日	研修テーマ：数理統計研修(短期集合研修)
	野菜果樹部 専門研究員 松尾 尚典	農林水産技術会議筑波事務所	12月12日～12月14日	研修テーマ：農林水産省中堅研究者研修
	環境部 専門研究員 堀之内勇人	野菜茶業研究所	12月13日～12月14日	研修テーマ：植物病原細菌の同定について
	環境部 専門研究員 砂川 匡	環境省環境調査研究所	5月10日～5月25日	研修テーマ：機器分析研修
18年度	実績なし			

### (2) 外部研究員・研修生受け入れ実績

	名称	対象	実施期間	内容
21年度	インターンシップ	大垣特別支援学校生徒	6月 8日～ 6月12日	1名 就業体験としての農作業実習

	名 称	対 象	実 施 期 間	内 容
21年度	国際交流研修	中国遼寧省経済作物研究所職員	6月22日～ 7月23日	1名 トルコギキョウの栽培技術及び育種技術の習得
	インターナシップ	岐阜県農業大学校生徒	7月15日	17名 試験研究の概要紹介
	インターナシップ	岐阜農林高校生徒	7月27日～ 7月31日	6名 就業体験としての農作業実習
	短期研修	岐阜農林高校生徒	7月27日～12月25日	3名 DNAマーカーによるカキの甘渋性の識別
	インターナシップ	岐阜農林高校生徒	8月 3日～ 8月 7日	6名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜大学応用生物科学部学生	8月17日～ 8月21日	3名 就業体験としての農作業実習
	岐阜市-杭州市職員相互派遣交流事業	中国杭州市職員	9月 8日	3名 農業技術センターにおける最近の研究成果紹介
	技術・経営強化（病害虫）研修	岐阜、西濃、中濃、東濃飛騨普及センター職員	9月 8日、10月 2日	5名 普及指導員を対象とした病害虫防除技術研修
	インターナシップ	岐阜本巣特別支援学校生徒	10月19日～10月23日	2名 就業体験としての農作業実習
20年度	インターナシップ	岐阜特別支援学校生徒	6月16日～ 6月27日	1名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜農林高校生徒	7月28日～ 8月 8日	8名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜大学応用生物科学部学生	8月25日～ 9月 5日	6名 就業体験としての農作業実習
	短期研修	岐阜農林高校生徒	9月 1日～12月末	2名 DNAマーカーによるカキの甘渋性の識別
	技術・経営強化（環境保全型農業）研修	岐阜、揖斐、中濃、郡上、下呂普及センター職員	11月13日、11月27日	5名 普及指導員を対象とした病害虫防除技術研修
19年度	技術研修	三重県科学技術振興センター職員	6月12日～ 6月13日	1名 カキに含まれるカロテノイド類の分析技術の習得
	自治体職員交流事業	中国江西省職員	7月 9日～11月30日	1名 農業技術の習得
	インターナシップ	岐阜農林高校生徒	7月23日～ 8月10日	15名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜大学応用生物科学部学生	8月27日～ 9月 7日	7名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜市立養護学校生徒	11月12日～11月16日	1名 就業体験としての農作業実習
	栽培管理研修	全農岐阜県本部職員	1月24日～ 2月 1日	1名 イチゴ・トマトの栽培管理及び調査方法の習得
18年度	インターナシップ	岐阜農林高校生徒	7月24日～ 8月11日	14名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜大学応用生物科学部学生	8月28日～ 9月 8日	8名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	海津市立平田中学校生徒	11月 6日～11月10日	3名 就業体験としての農作業実習
	インターナシップ	岐阜市立養護学校生徒	11月27日～12月 1日	1名 就業体験としての農作業実習

### (3) 出前授業等の教育に係る取り組み

	名 称	対 象	実施期間	内 容
21年度	クリのぎふクリーン農業栽培講習会	農業者等	4月13日	100名 家畜ふん堆肥の肥効成分を活かした利用法について

	名 称	対 象	実施期間	内 容
21年度	養老町カキ組合技術講習会	農業者等	4月15日	30名 性フェロモンによる減農薬防除について
	南濃町カキ組合技術講習会	農業者等	4月22日	80名 性フェロモンによる減農薬防除について
	岐阜市カキ共販振興会総会講演	農業者等	5月26日	100名 カキの新品種について
	バラ育種講座	一般県民等	6月 4日	40名 バラの交配技術等に関する講義
	岐阜柿ブランドづくり研究会	農業者等	6月26日	20名 カキの新品種について
	岐阜イチゴ反省会	農業者等	7月 7日	60名 美濃娘の特性と栽培管理のポイント
	ポット柿研究会	農業者等	7月17日	10名 気候温暖化の影響および加工・業務用対応について
	家畜排泄物堆肥の新窒素肥効評価法研修会(愛知県)	行政関係者等	8月28日	30名 家畜ふん堆肥の速効・緩効性窒素の評価と実技指導
	大野町カキ振興会技術研修会	農業者等	10月 9日	15名 カキ害虫「フジコナカイガラムシ」の防除のポイントと開発中の防除技術について
	農薬管理指導士養成研修	農業関係者等	10月27日	115名 害虫に対する基礎知識と様々な防除法について
	バラ育種講座	一般県民等	11月19日	40名 播種及び選抜に関する講義
	カキ専門部会研修会	農業者等	12月 7日	80名 カキの樹幹塗布処理法によるコナカイガラムシ類の防除
	ひるがの夏秋イチゴ栽培技術研修会	農業者等	12月 8日	20名 本年度の現地試験結果と新品種「なつしづく」の品種特性
	おんさい広場研修会	農業者等	12月21日	25名 試験研究の最近の成果について
20年度	バラ育種講座	一般県民等	6月 5日	20名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	農薬管理指導士養成研修	農業関係者等	10月14日	115名 害虫に対する基礎知識と様々な防除法について
	バラ育種講座	一般県民等	11月18日	20名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	バラ育種講座	一般県民等	1月20日	20名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	耕畜連携堆肥利用推進研修会	農業者等	1月28日	90名 家畜ふん堆肥の肥効成分を活かした利用法について
	岐阜市園芸振興会役員研修会	農業関係者等	3月10日	60名 家畜ふん堆肥の肥効成分を活かした利用法について
19年度	カキ日の丸会研修会	農業者等	4月17日	20名 カキの肥料吸収特性について
	トマトスーパーホール計画セミナー	農業者等	4月26日	100名 トマト独立ポット耕システムについて
	バラ育種講座	一般県民等	6月 7日	20名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	EBBFフォーラム	一般県民等	11月 1日	130名 カキ及びイチゴの機能性成分とその利用について
	バラ育種講座	一般県民等	11月20日	12名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	養蜂連技術講習会	農業者等	1月18日	70名 レンゲ害虫アルファルファタコゾウムシの防除法について
	カキクリーン農業研修会	農業者等	1月29日	50名 性フェロモンを利用したカキ害虫の防除について
18年度	南濃町カキ研究会	農業者等	4月20日	90名 カキの肥料吸収特性について
	岐阜大学ゼミ講座	学生等	4月28日	15名 鉢花病害について
	農業大学校研修	学生等	5月17日	19名 有機農業について
	バラ育種講座	一般県民等	6月 8日	23名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	JA営農アドバイザー研修	農業関係者等	7月 1日	40名 最近の試験研究成果について
	カキ日の丸会栽培講習会	農業者等	7月11日	20名 カキの新品種と栽培法について
	農薬管理指導士研修	農業関係者等	11月 2日	160名 害虫に関する基礎知識と様々な防除法について
	バラ育種講座	一般県民等	11月21日	22名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	ぎふポット柿研究会	農業者等	1月19日	20名 気候温暖化の最近の知見について

	名 称	対 象	実施期間	内 容
	養蜂技術講習会	農業者等	1月19日	70名 農薬を使用しない害虫の防除法について
	バラ育種講座	一般県民等	1月23日	20名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義
	ぎふポット柿研究会	農業者等	3月16日	20名 カキの新品種について
	バラ育種講座（大野町）	農業者等	3月22日	16名 バラの育種、栽培管理技術等についての講義

## 8 所外活動

### (1) 学会等の活動（役員など）

年 度	氏 名	内 容
21年度	米 山 誠 一	日本茶業技術協会 理事
	鈴 木 隆 志	日本園芸学会東海支部 支部活動における会計業務全般
	矢 野 秀 治	中部土壤肥料研究会 評議委員
	棚 橋 寿 彦	日本土壤肥料学会中部支部 評議委員
	天 野 昭 子	日本農業学会 評議委員
計	5 名	
20年度	米 山 誠 一	日本茶業技術協会 理事
	市 橋 秀 幸	関西病害虫研究会 評議委員
	棚 橋 寿 彦	日本土壤肥料学会中部支部 評議委員
	砂 川 匠	中部土壤肥料研究会 評議委員
計	4 名	
19年度	米 山 誠 一	日本茶業技術協会 理事
	宇次原 清 尚	日本園芸学会東海支部 評議委員
	青 木 克 典	関西病害虫研究会 評議委員
	棚 橋 寿 彦	中部土壤肥料研究会 評議委員
計	4 名	
18年度	米 山 誠 一	日本茶業技術協会 理事
	宇次原 清 尚	日本園芸学会東海支部 評議委員
	棚 橋 寿 彦	中部土壤肥料研究会 評議委員
	青 木 克 典	関西病害虫研究会 評議委員
計	4 名	

### (2) 客員教授など（連携大学院によらないもの）

実績なし

## 9 受賞実績

	受賞者氏名等	受 賞 名	表 彰 機 関 名	受賞内容（業績）
21年度	天野 昭子	日本農薬学会業績賞	日本農薬学会 (表彰式は23年5月の予定)	農業生産現場における簡易農薬残留分析システムの応用と普及
20年度	トルコギキョウ 「シンフォニー マリン」 「ひだ の雪姫」	入賞	ジャパンフラワーセレクション実行 協議会	花の新たな価値観をデザインする品種。使い勝手が優れており、フラワーデザイン、ガーデンデザインの多様性を広げて花文化の未来に貢献する品種に授与。
19年度	トルコギキョウ 「エグゼピンク」	ニューバリュー特別賞 モニター特別賞	同上	同上
18年度	フランネルフラ ワー「フェアリ ーホワイト」	ベストフラワー（優秀賞） ニューバリュー特別賞	同上	同上
計	4名（件）			